取扱説明書

R 422Ts AWD

本機をご使用になる前に、この取扱説明書を注意深くお読みいただき、内容を必ずご確認ください。

Japanese

目次

目次
目次 2
サービスジャーナル
納品前サービス 3
最初の8時間後 3
はじめに
お客様へ 4
公道における運転と搬送 4
けん引 4
使用 4
質の高いサービス 4
マークの説明
シンボルマーク 5
各部名称
コントロールの場所 7
安全注意事項
安全注意事項 8
斜面での運転 9
子供 10
メンテナンス 10
移動 11
概要
概要 12
スロットルトリガー 12
チョークコントロール 12
速度リミッタ 12
カウンター 12
駐車ブレーキ 12
カッティングユニット 13
アタッチメントの油圧リフトレバー 13
カッティングユニットの機械式リフトレバー 13
刈高調整レバー 13
シート 14
給油 14
ライトと電源出力 14
リリースレバー 14
運転
始動前に 15
エンジンの開始 15
充電不足のバッテリーでのエンジンの始動 16
Rider の運転 17
ブレーキ 17
エンジンの停止 17
メンテナンス
メンテナンススケジュール 18
清掃 20
本体フードの取り外し 20
ステアリングワイヤの点検と調整 21
駐車ブレーキの調整 21
スロットルワイヤの点検と調整 22
チョークワイヤの点検と調整 22
燃料フィルターの交換 22
燃料ポンプのエアフィルターの点検 22
トランスミッションの空気取り込み口の点検 22
エアフィルターを清掃します。 23
イグニションシステム 23
エンジンとマフラーの清掃 23
安全システムの点検 24
電球の交換 24
メインヒューズ 24
タイヤ圧の点検 25
エンジンの冷却エアインテークの点検 25
油圧ポンプのドライブベルトの交換（R 422 Ts AWD） 25
センターベルトの交換 26
フロントベルトの交換 26
カッティングヘッドの取り付け 27
カッティングユニットの取り外し 28
カッティングユニットの接地圧の点検と調整 28
カッティングユニットの平行性の点検 28
カッティングユニットの平行性の調整 29
カッティングユニットのベルト交換 29
カッティングユニットのサービスポジション 30
ブレードの点検 31
ブレードの交換 31
バイオクリッププラグの取り外し 31
潤滑剤の使用
全般 32
アクセサリ 32
ケーブルへの注油 32
フレームトンネルのチェーン 32
刈高調整のリンクとジョイント 32
運転席 33
スロットルとチョークケーブル、レバーベアリング 33
ベルト調整ネジへの注油 33
エンジンの油面の点検 33
リンク付きハイドロスタティックケーブルへの注油 34
オイルフィルターの交換 34
油圧オイルフィルターの交換 35
駐車ブレーキワイヤへの注油 35
トランスミッション用オイルの油面の点検 35
トラブルシューティング
電気および油圧システム
電気系統 37
油圧システム 38
保管
冬期保管 39
ガード 39
サービス 39
主要諸元
EC 適合性宣言 41

サービスジャーナル

納品前サービス

1 最大 3 アンペアでバッテリーを 4 時間充電する。 ☐

2 ステアリングホイール、シート、およびオプションの装置を取り付ける。 ☐

3 タイヤ圧を点検して調整する (60 kPa、0.6 bar、9 psi)。 ☐

4 カッティングユニットの調整:

リフトスプリングを調整する(カッティングユニットの有効質量は 12-15 kg/26.5-33 lb です)。 ☐

後端が前端よりも 2-4 mm または 1/8 インチ高くなるようにカッティングユニットを調整する。 ☐

最も低い刈高で接続ロッドに張りが出るように、カッティングユニットの刈高を調整する。 ☐

5 エンジンに適量のオイルが入っていることを確認する。 ☐

6 トランスミッションのオイルタンクにオイルが入っていることを確認する。 ☐

7 バッテリーを接続する。 ☐

8 燃料を入れてエンジンを始動する。 ☐

9 本機がニュートラルで動かないことを確認する。 ☐

10 点検:

前進 ☐

後退 ☐

ブレードの動き ☐

シートの安全スイッチ ☐

リフトレバーの安全スイッチ ☐

ハイドロスタットペダルの安全スイッチ ☐

11 お客様への連絡事項:

サービススケジュールに従うことの必要性とその利点 ☐

メンテナンスとこのジャーナルの記録が本機の中古価格に与える影響

トランスミッションの保証は、サービススケジュールに従ってフロント／リヤホイールの回転速度を点検した場合にのみ有効になります。サービスマニュアルの表に記載された値に従って必要に応じて調整します。信頼できるサービスディーラーが行う必要があります。この調整を行わないと、システムに損傷が生じることになります (AWD 製品のみ)。 ☐

バイオクリップの適用範囲 ☐

販売の完全な証明 ☐

納品前サービスを実施しました。現在、問題は発生していません。証明:

_____

日付、マイレージ、スタンプ、署名

最初の8時間後

1 エンジンオイルの交換 ☐

2 ギアボックスのオイル交換 (AWD 製品のみ)。 ☐

はじめに

お客様へ

Husqvarna Rider をご購入いただき誠にありがとうございます。Husqvarna Rider は、前面に取り付けられたカッティングユニットと特許取得済みの関節式ステアリングなど、独創的な設計に基づいて製造されています。狭い領域または限られた領域であっても、Rider の設計では最大の効率性が追求されています。本機の機能性向上には、集中的に配置されたコントロール、ペダル操作式のハイドロスタティックトランスミッションも役に立っています。

本取扱説明書は大切な書類です。（操作、サービス、メンテナンスなどで）説明書の記載内容に従うことにより、本機の寿命を延ばし、転売時の価格も高く維持できます。

本機を転売する場合、次の購入者には必ず取扱説明書を渡してください。

取扱説明書の最後の章は、サービスジャーナルになっています。必ずすべての点検作業と修理を記録に残してください。メンテナンスの履歴が十分に残されていると、季節ごとのメンテナンスコストが削減され、本機の転売時の価格も高くなります。メンテナンスのためにサービスワークショップに持ち込む場合は、本機とともに取扱説明書を提示してください。

公道における運転と搬送

公道で本機を運転する前に、適用される道路交通法を確認してください。別の車両で本機を搬送する場合は、必ず承認された固定器具を使用して、本機がしっかりと固定されていることを確認してください。

けん引

本機にハイドロスタティックトランスミッションが搭載されており、本機を牽引する場合は、短い距離に限定して低速で行ってください。そうしないと、トランスミッションが損傷する危険性があります。

牽引時は、トランスミッションがかかっていない状態にする必要があります。詳細は、「バルブのバイパス」を参照してください。

使用

この乗用芝刈機は、開けた平らな地面の芝を刈ることを目的に設計されています。また対応領域を広げられるようにお勧めのアクセサリーも多く取り揃えています。購入可能なアクセサリーの詳細は、販売店までお問い合わせください。本機では、メーカーから推奨される装置のみを使用することができます。それ以外の使用は適切ではありません。本機を本来の目的で利用するには、操作、メンテナンス、修理に関してメーカーが指定する条件に厳密に従うことが不可欠になります。

重要事項　トランスミッションの保証は、サービススケジュールに従ってフロント／リヤホイールの回転速度を点検した場合にのみ有効になります。サービスマニュアルの表に記載された値に従って必要に応じて調整します。信頼できるサービスディーラーが行う必要があります。この調整を行わないと、システムに損傷が生じることになります（AWD 製品のみ）。

本機の操作、メンテナンス、修理は、本機の特性と安全に関連する手順に精通した担当者のみが行うようにしてください。

事故防止の法規制、安全、産業医学に関連したその他の一般的なあらゆる法規制、道路交通に関するすべての法規制を常に順守する必要があります。

本機を独断で改造したことが原因で損害または負傷に至った場合、メーカーは責任を免除されるものとします。

質の高いサービス

ハスクバーナの製品は全世界で販売されており、お客様が最高のサポートとサービスを得られるよう徹底しています。例えば、本機は納品される前に、販売店が点検および調整を行っています。この取扱説明書の「サービスジャーナル」で点検済みの証明を確認できます。

修理には純正のスペアパーツのみを使用してください。純正ではない部品を使用すると保証は無効になります。

スペアパーツ、メンテナンスに関するアドバイス、保証の条件などに関しては、次の窓口にお問い合わせください。

この取扱説明書は、次の製造番号が割り当てられた製品に付属しています。	エンジン	トランスミッション

製品本体の銘板には、次の情報が記載されています。

- 本機のタイプ指定
- メーカーの種別番号
- 本機の製造番号

スペアパーツを発注するときには、タイプ指定と製造番号を伝えてください。

マークの説明

シンボルマーク

以下のシンボルマークは、本機および取扱説明書で使用されています。

警告! 不注意な取り扱いや誤った取り扱いは作業者や周囲の人などに深刻な、時には致命的な傷害を引き起こすことがあります。

本機をご使用になる前に、この取扱説明書を注意深くお読みいただき、内容を必ずご確認ください。

常に下記のものを着用してください。

- 承認されたイヤマフ

この製品はEC規格適合製品です。

高速

低速

エンジンを止めてください。

チョーク

燃料

油面

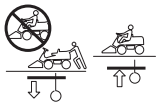
刈高

後退

前進

イグニション

ハイドロスタティックフリーホイール



駐車ブレーキ

環境に対する騒音レベルは EC 指令に準拠しています。本機の騒音レベルは、主要諸元の章とステッカーに記載されています。

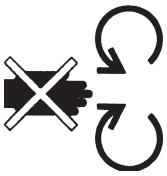
クラッチイン

クラッチアウト

高温の表面にご注意ください。

カバーロック

警告:回転部品。手足を近づけないでください。



ロータリーブレード。エンジンの駆動時には、フードの下に手足を入れないようにしてください。

本機が転倒する危険性

斜面では運転しないでください。

人(特に子供)や動物が近くにいるときには、本機を絶対に使用しないでください。

本機または装置に人を乗せて運転しないでください。

カッティングユニットを装着していないときは、非常にゆっくりと運転してください。

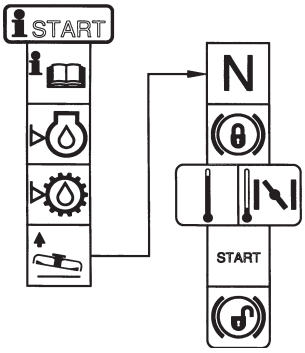
後退する前または後退時には、必ず後ろを見てください。

マークの説明

修理、メンテナンスを行う前に、エンジンを切り、イグニションケーブルを外してください。

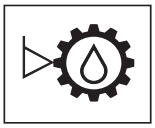
ブレーキ

始動の説明



エンジンの油面の点検

トランスミッション用オイルの油面の点検



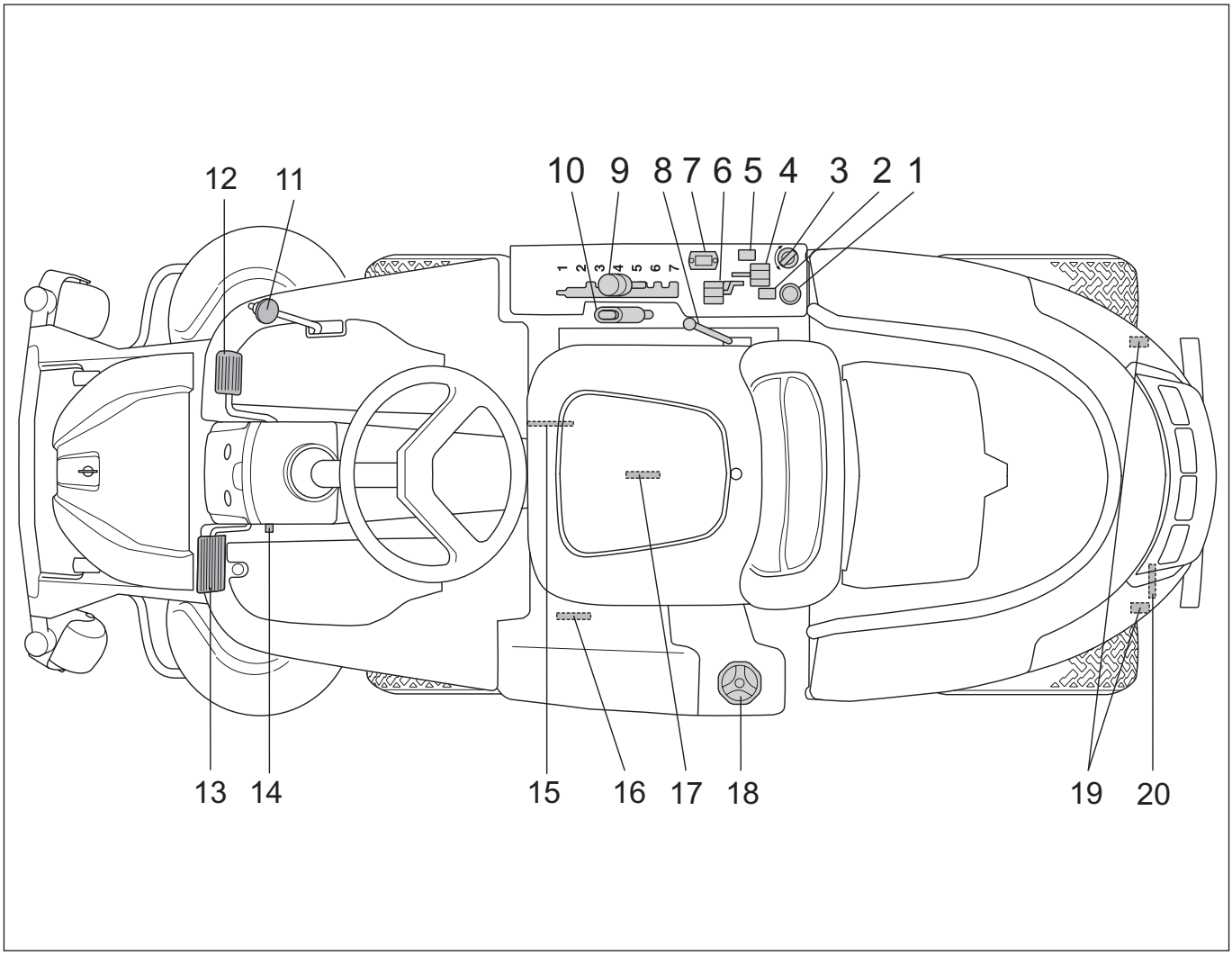
カッティングユニットの持ち上げ

駐車ブレーキをかけます。

エンジンが冷えている場合は、チョークを使用してください。

運転の前に駐車ブレーキを外します。

各部名称



コントロールの場所

1 電源出力
2 電源出力のスイッチ
3 イグニションロック
4 スロットルトリガー
5 ライトのスイッチ
6 チョークコントロール
7 カウンター
8 アタッチメントの油圧リフトレバー
9 刈高調整レバー
10 カッティングユニットの機械式リフトレバー
11 後退の速度リミッタ
12 前進の速度リミッタ
13 駐車ブレーキ
14 駐車ブレーキのロックボタン
15 シート調整
16 ドライビングフロントアクスルをかかっていない状態にするレバー（AWDのみ）
17 製品およびシリアル番号の付いたプレート
18 燃料キャップ
19 カバーロック
20 ドライビングリヤアクスルをかかっていない状態にするレバー

安全注意事項

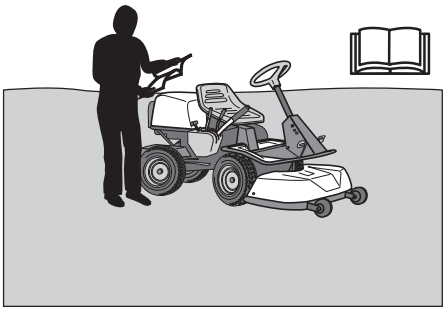
ここでは、安全のための注意事項について説明します。十分に注意してお読みください。

本機に適用される保険

- 新たに購入した製品に保険がかかっていることを確認してください。
- 保険会社に問い合わせてください。
- 第三者補償、火災、損害、盗難、使用者責任など、総合的な保険を契約する必要があります。

一般的な用途

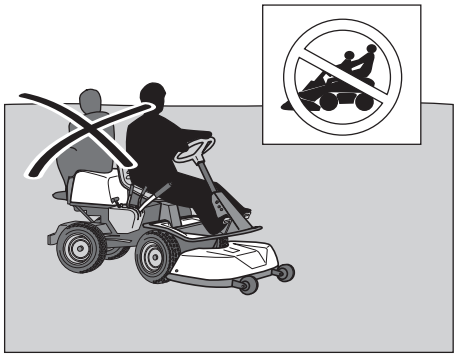
- 使い始める前に、この取扱説明書と本機に記載されたすべての説明を読んでください。説明を理解したうえで、必ずそれに従うようにしてください。



警告! 本機は、運転中に電磁場を生成します。この電磁場は、場合によって能動あるいは受動的な医療用インプラントに影響を及ぼすことがあります。深刻なまたは致命傷の危険を避けるため、医療用インプラントを使用している人が本機を操作する前に、主治医およびペースメーカーの製造元に相談することをお奨めします。

- マシンの使用方法、安全な操作、および迅速な停止方法などについて学習してください。さらに、安全マークを識別できるように学んでください。
- 使い方をよく知っている成人のみが、本機をご利用いただけます。
- エンジンの始動時、および駆動装置の切り替え操作時に、本機の近くに誰もいないことを確認してください。
- ブレードに取り込まれて、飛ばされる可能性があるため、対象範囲に石、玩具、ワイヤなどがないように清掃を行います。

- 排出装置に注意して、第三者に向けないように注意します。
- カッティングユニットを清掃する場合は、必ず事前にエンジンを停止して、始動しないように注意してください。
- 危険や事故に対してドライバーが責任を負っていることを忘れないでください。
- 人を乗せないでください。本機は、搭乗 1 名のみとして設計されています。



- 後退する前または後退時には、必ず下と後ろに注意してください。大きな障害物と小さな障害物の両方に注意してください。
- 曲がる前に、速度を落としてください。
- 芝刈をしないときは、ブレードのスイッチをオフにしてください。
- 固定された物の周囲を移動するときは、ブレードが当たらないように注意してください。異物がある場合、決してその上を通らないでください。

警告! 本機では、手足が切れるだけではなく、物が飛ばされることもあります。安全注意事項に従わないと重傷を負う可能性があります。

警告! マフラーには発ガン成分となり得る化学物質が使われています。万が一マフラーが損傷した場合、これらの物質に触れないようにしてください。

警告! エンジンは一酸化炭素を排出します。これは、無色の有毒ガスです。本機は密閉された場所では使用しないでください。

- 本機は日光や照明が十分な状態でのみ使用してください。地面にある穴または凹凸に対しては、安全な距離を保つようにしてください。その他の危険に注意してください。
- 疲れているとき、アルコールを摂取したとき、または視覚、判断、運動能力に影響を及ぼすような医薬品を使用したときには、絶対に本機を使用しないでください。
- 濃霧、雨、湿気のある場所、濡れた場所、強風、厳寒、落雷の危険性など、気象条件の悪いときは、本機を使用しないでください。
- 道路が近い場所で作業をする場合、または道路を横断する場合は、交通状況に注意してください。
- エンジンが作動している状態、および管理者のいない状態でマシンを放置しないでください。本機を離れる場合は、ブレードを停止して駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めてから、必ずキーを抜くようにしてください。

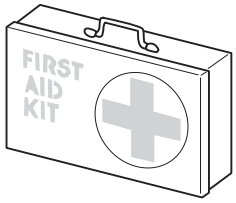
- 子供や本機の扱いに不慣れな人間に本機を使用させないようにしてください。居住地の法律によっては、使用者の年令制限がある場合があります。

警告! 本機を使用するときは、認可のある身体防護具を必ず着用してください。身体防護具で負傷の危険性を排除できるわけではありませんが、万が一事故が起こった場合、負傷の度合いを軽減することができます。身体保護具の選択については、本機の販売店にご相談ください。

- 聴覚障害の危険性を最小限にするために、イヤマフを装着してください。

- 袖締まりの悪い服装、装身具、稼働部品に絡まる恐れがある物は、決して身に着けないでください。
- 裸足では、本機を使用しないでください。保護シューズまたはプロテクティブブーツ、可能な場合は、つま先部がスチールで保護された安全靴を常に履くようにしてください。

- 本機を使用する際は、常に救急器具を近くに準備するようにしてください。



斜面での運転

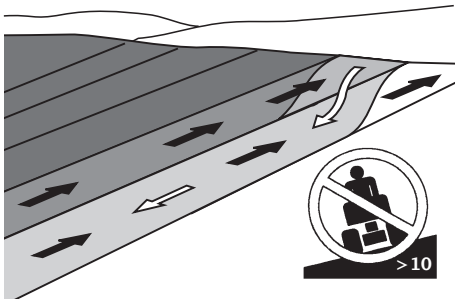
斜面での運転は、ドライバーが本機のコントロールを失う危険性がある操作、または横転する可能性が最も高い操作の 1 つです。このような場合、重傷や死亡事故に至る可能性があります。あらゆる斜面で、一層の注意が必要とされます。斜面を後退で上がれない場合、またはこの操作に不安がある場合、芝刈を続行しないでください。

重要事項

カッティングデッキを持ち上げた状態で斜面を下りないでください。

必要とされる作業

- 石や小枝など、障害物を取り除いてください。
- 芝刈は登り下りの方向で行います。斜面を水平方向に移動する形では、芝刈を行わないでください。



- 10 度を超える斜面では、本機を使用しないでください。
- 本機の安定性に影響する部品を取り付けている場合、一層の注意が必要になります。
- 斜面では、始動または停止を行わないでください。タイヤのスリップが始まったら、ブレードを停止して斜面をゆっくりと下りてください。
- 斜面では、常にゆっくりとスムーズに運転してください。
- 速度や方向は急に変えないようにします。
- 斜面では、不要な方向転換を避けてください。必要な場合は、できるだけゆっくりと下の方向へ曲がるようにします。低速で運転します。ハンドルを急に切らないでください。
- 溝、穴、隆起の上を通らないように注意してください。本機は、平らではない地面では横転する可能性が高くなります。長い芝の中に障害物が隠れていることがあります。

- 地面の端、溝、または土手のすぐ近くでは、芝刈をしないでください。ホイールの 1 個が急斜面または溝の端に差しかかると、または端が崩れ落ちると、本機が急に横転する可能性があります。
- 濡れた芝は刈らないでください。濡れた芝では滑りやすく、タイヤがグリップを失って本機が横滑りする可能性があります。

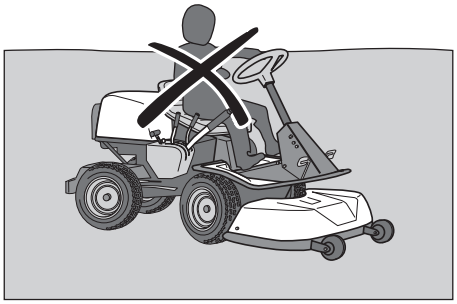
- 本機を安定させようとして地面に足をつけないでください。
- シャーシを清掃する際に、道の端や溝の近くで本機を運転しないでください。
- 芝刈のときは、茂みやその他の障害物に近づかないでください。
- 本機の安定性を高めるために、ホイールウェイトやカウンタバランスウェイトを調整する場合は、メーカーの推奨事項に従ってください。

重要事項

斜面で運転する場合、より安全なハンドルさばき、操作性向上のために、リヤホイールにホイールウェイトを装着することをお勧めします。ホイールウェイトの利用を検討される場合は、販売店までお問い合わせください。ホイールウェイトは AWD 製品では使用できません。カウンタウェイトを使用してください。

子供

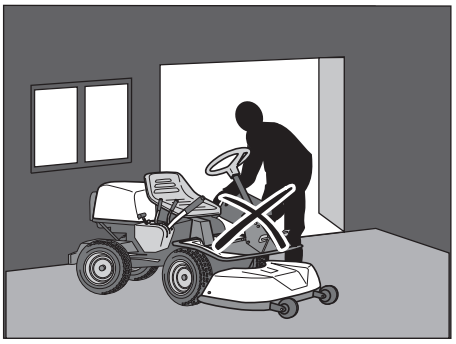
- 本機の近くで子供が遊んでいる場合、十分な保護対策を行わないと、重大な事故が起きる可能性があります。子供は、機械類や芝刈に関心を示す傾向があります。最後に見た場所に子供がずっと留まっているとは考えないでください。
- 別の大人が近くで見守ることで、芝刈の領域に子供が入らないようにしてください。
- 子供が作業領域に入った場合は、目を離さないようにして本機を停止してください。
- 後退する前または後退時には、後ろと下を見て、小さな子供がいないことを確認してください。
- 子供を芝刈機に乗せないでください。子供が落ちて重傷を負ったり本機の安全な運転の妨げになったりする可能性があります。
- 子供にマシンを操作させないでください。



- 近くの曲がり角、茂み、樹木、視界をさえぎるその他の障害物に特に注意してください。

メンテナンス

- エンジンを止めてください。調整またはメンテナンスを行う場合は、事前にイグニションキーを取り外して、エンジンが始動しないようにしてください。
- 屋内では絶対に燃料タンクに充填しないでください。

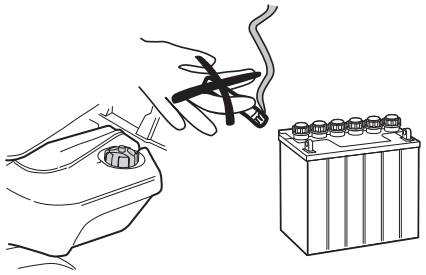


- 燃料や燃料のガスは有害であり、非常に引火性の高いものです。不注意が人的傷害や火事を招く可能性があるため、ガソリンおよびエンジンオイルを取り扱うときは特に注意してください。
- 燃料の保管には、保管専用に承認された容器を使用してください。
- エンジンの稼働中は燃料キャップを外したり、燃料タンクに燃料を充填することは絶対にしないでください。
- 燃料を充填する場合は、エンジンが冷えるまで待ちます。タバコを吸わないでください。火花や裸火の付近で燃料を充填しないでください。
- オイル、オイルフィルター、燃料、およびバッテリーは、環境への影響を考慮して慎重に取り扱ってください。地域で定められたリサイクルの要件に従ってください。
- 感電すると、負傷するおそれがあります。エンジンの稼働中は、ケーブルには決して触れないでください。手でイグニションシステムをテストしないでください。

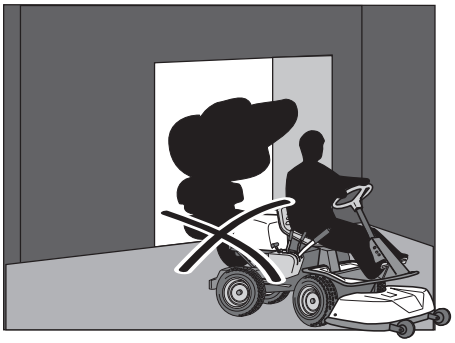
警告! エンジンと排気システムは、運転中に非常に高温になります。触れると火傷を負う危険性があります。熱による影響を避けるために、芝刈のときは、茂みやその他の障害物に近づかないでください。

- 燃料システムで漏れが発生している場合、問題が解決されるまでエンジンは始動しないでください。
- 漏れた燃料またはガスによる損傷が発生しないような方法で、本機と燃料を保管してください。
- 使用前には燃料の油面を毎回確認して、燃料が膨張できる空間を残すようにしてください。エンジンや太陽の熱により、燃料が膨張してあふれる可能性があるためです。
- 過剰充填を避けてください。本機にガソリンをこぼした場合は、こぼれたガソリンをふき取って、ガソリンが完全に蒸発するまで待ってからエンジンを始動するようにしてください。衣服にガソリンをこぼした場合は、着替えてください。
- エンジンコンパートメントで何らかの作業を行う場合は、本機が冷えるまで待ちます。

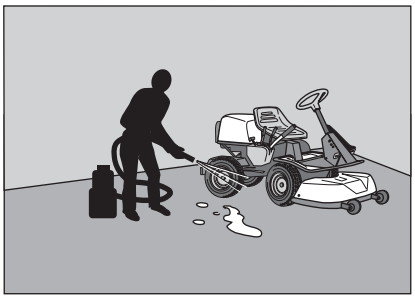
- バッテリーのメンテナンスでは、十分に注意してください。バッテリー内では、爆発性のガスが発生します。タバコを吸いながら、または裸火や火花の近くで、バッテリーのメンテナンスを絶対に行わないでください。この状況で行うと、バッテリーが爆発して重傷を負うことがあります。



- すべてのナットとボルトが正しく締め込まれていること、装置が良好な状態であることを確認してください。
- 安全装置に変更を加えないでください。正常に機能することを定期的に確認してください。保護プレートや保護カバー、安全スイッチ、その他の保護装置が取り付けられていない、または故障しているときは、本機を運転しないでください。
- エンジンカバーを開いたまま、または保護カウリングを外したままエンジンを始動した場合、駆動部品や加熱した部品で負傷する危険性に注意してください。
- ガバナーの設定を変更しないでください。過度に高速で運転すると、本機の部品が損傷する危険性があります。許容されるエンジンの最高速度については、「主要諸元」の章を参照してください。
- 屋内または適切な換気ができない空間では、本機を決して使用しないでください。排気ガスには、無臭で有毒な危険性の高いガスである一酸化炭素が含まれます。



- 何かに乗り上げた場合や衝突した場合は、本機を停止して点検してください。始動前に、必要に応じて修理を行います。
- 動いているエンジンの調整は決して行わないでください。
- 本機のテストと承認は、メーカーが提供または推奨した装置を使用して行われます。
- ブレードの刃先は鋭く、触れると怪我をするためご注意ください。ブレードを取り扱うときは、ブレードを包むか、保護手袋をはめてください。
- 駐車ブレーキが正常に作動することを定期的に確認してください。必要に応じて、調整とメンテナンスを行います。
- 本機に絡まっている草、葉、その他のごみを取り除いて火災発生の危険性を軽減します。保管場所に入れる際は、本機が冷えるまで待ちます。



移動

重要事項

搬送する場合、駐車ブレーキだけでは、本機の固定に十分ではありません。搬送車両に本機がしっかりと固定されたことを確認してください。

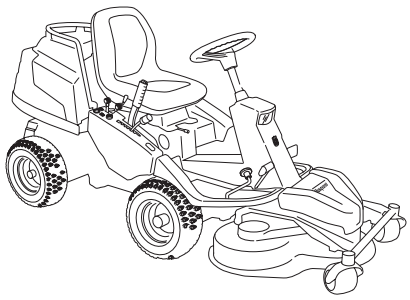
- 本機は重いため、事故が起こった場合は重傷を負う可能性があります。搬送車両またはトレーラーに本機の積み下ろしを行う場合は、一層の注意を払うようにしてください。
- 本機を搬送する場合は、承認されたトレーラーを使用してください。
- 本機をトレーラーに固定するには、承認された 2 本のテンションベルトと 4 個のくさび形ホイールブロックを使用する必要があります。

  駐車ブレーキをかけて、フレームまたはリヤワゴンなど、剛性が高い部品にテンションベルトを結びつけます。トレーラーの後部と前部に向けてベルトをしっかり張って本機を固定します。

  リヤホイールの前後にホイールブロックをはめ込みます。
- 本機の搬送または運転を公道で行う場合、適用される地域の道路交通法規を事前に確認して、それを順守するようにしてください。

概要

お選びいただいた製品は高品質であるため、弊社では今後多年にわたってお客様がその効果をご体験いただけるものと期待しています。この取扱説明書は、R 422 Ts AWD を対象としたものです。本機には、Briggs & Stratton　の　4 サイクル V-Twin エンジンが搭載されています。

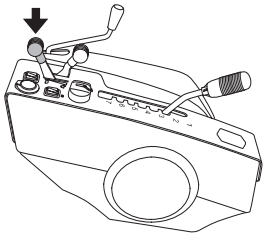


このほか、パワーステアリングと油圧リフトを装備します。R 422 Ts AWD は全輪駆動です。

エンジンからの動力伝達は、ハイドロスタティックトランスミッションで制御されます。この部品により、ペダル操作でさまざまな速度を出すことができます。1 つのペダルは前進に、もう 1 つのペダルは後退に使います。

スロットルトリガー

スロットルコントロールはエンジン速度を制御します。したがって、ブレードの回転速度も制御されます。

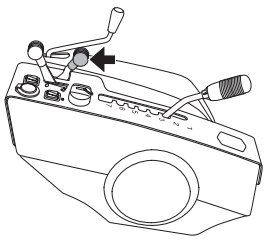


エンジン速度を増減するには、コントロールを前後に動かします。

スパークプラグにカーボンがたまる危険があるため、長時間エンジンをアイドリングしないでください。

チョークコントロール

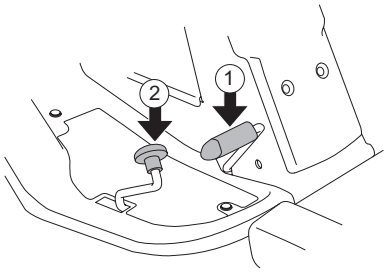
チョークレバーを使うと、空燃比が濃厚になり、エンジンをコールドスタートできます。



コールドスタートするには、レバーを末端位置の方向に動かします。

速度リミッタ

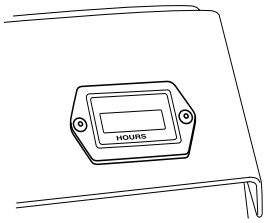
本機の速度は、2 つのペダルを操作して無段階式に制御します。ペダル（1）は前進に使用され、ペダル（2）は後退に使用されます。



警告！茂みの中で芝刈を行っている場合、枝がペダルの邪魔にならないように注意してください。注意を怠ると、本機を制御できなくなる危険性があります。

カウンター

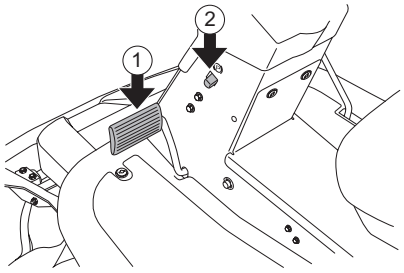
クロノメーターには、エンジンの運転時間が表示されます。



イグニションスイッチが入っても、エンジンが稼働していない時間は運転時間として記録されません。最後の桁は 1 時間の 1/10（6 分）を示します。

駐車ブレーキ

駐車ブレーキは次のようにかけます。



1　駐車ブレーキのペダル（1）を踏みます。

2　ステアリングコラムのロックボタン（2）を押し入れます。

3　ボタンを押した状態のまま、駐車ブレーキペダルを放します。

ブレーキペダルを踏むと、駐車ブレーキのロックが自動的に外れ、ブレーキがかかっていない状態になります。

カッティングユニット

R 422 Ts AWD には、2 種類のカッティングユニットを装着できます。コンビ 112 とコンビ 122 です。

バイオクリッププラグが装着されたコンビユニットは、肥料になるように芝を細かく刻みます。バイオクリッププラグがない場合、ユニットは後方排出ユニットと同じような働きをします。後方排出ユニットは、刈った芝を細かく刻まずにユニットの後方に排出します。

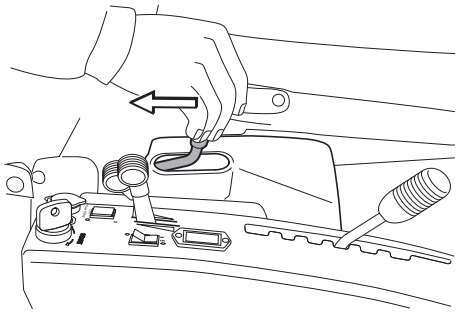
アタッチメントの油圧リフトレバー

このリフトレバーは、油圧を利用できるときに、カッティングユニットを搬送位置か芝刈位置のいずれかにセットするのに使用します。

レバーを搬送位置に動かすと、ブレードブレーキが自動的に作動し、約 5 秒以内にブレードが停止します。

カッティングユニットの上昇（搬送位置）

レバーを後方に引いて、搬送位置に入れます。カッティングユニットが持ち上がり、ブレードの回転が停止します。

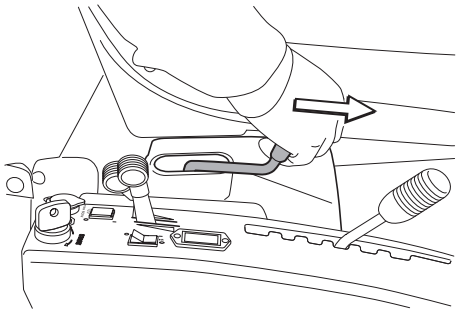


機械式のリフトレバーを使用する場合、必要であれば、カッティングユニットを固定してください。

カッティングユニットの下降（芝刈位置）

機械式のリフトレバーでカッティングユニットを搬送位置にしてあれば、機械式リフトレバーを芝刈位置に移動します。

油圧リフトレバーを前方に動かして、芝刈位置に入れます。ユニットが下降し、ブレードの回転が始動します。



油圧シリンダーを外側の位置にしっかり入れるために、レバーを前方位置に入れて 1/2 秒から 1 秒程度保持します。

カッティングユニットの機械式リフトレバー

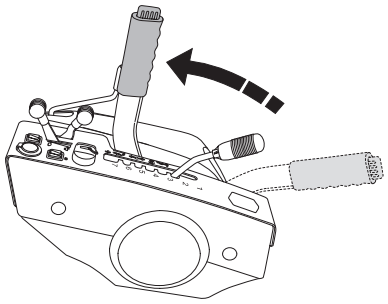
このレバーは、油圧が利用できないときに、カッティングユニットを搬送位置か芝刈位置にセットする予備レバーとして使います。また、このレバーでもカッティングユニットを搬送位置に機械的に固定できます。

ユニットが芝刈位置にある間にエンジンが停止した場合、このレバーを使ってエンジンを始動すると、スタートロック回路の作動を解除して、ユニットを上昇できます。

レバーを搬送位置に動かすと、ブレードブレーキが自動的に作動し、約 5 秒以内にブレードが停止します。

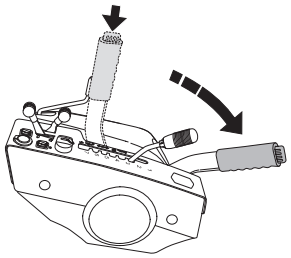
搬送位置

レバーを後方に引くと、ユニットが持ち上げられ、ブレードは自動的に回転を停止します（搬送位置）。



芝刈位置

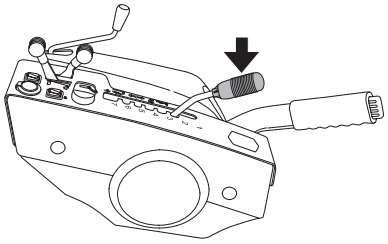
ロックボタンを押してレバーを前方に動かすと、ユニットが下がって、ブレードは自動的に回転を開始します（芝刈位置）。



この操作をしても芝刈位置に入らない場合、ユニットを油圧リフトレバーで上昇させた可能性が考えられます。その場合、油圧リフトレバーでユニットを芝刈位置まで下降させてください。

刈高調整レバー

刈高レバーを使用すると、刈高を 7 の異なる位置に調整できます。



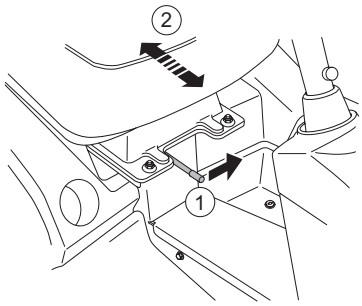
均一な刈高を実現するには、左右のフロントホイールの空気圧を 60 kPa/8.5 PSI に均等に維持してください。

シート

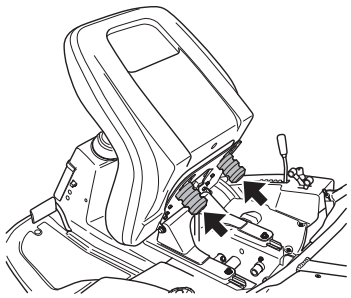
シートの前端にはジョイント式の取り付け具があり、前方に倒すことができます。

またシートは前後に調整できます。

シート前端下にあるレバーを左に動かすと、シートを前後に動かして、好みの位置に調整できます。



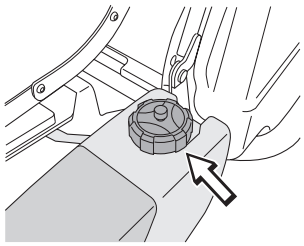
シートサスペンションは、シート下に取り付けたゴムの止め具を移動して調整します。2 つの止め具を前部と中央部または後部に置いてください。



給油

エンジンは無鉛ガソリンで動き、最小オクタン価は 87 になっています（オイルの混合なし）。生物分解性のアルキレートガソリンの使用をお勧めします。（メタノール 5 %以下、エタノール 10 %以下、MTBE 15 %以下）

タンクには、満タンまでガソリンを充填しないでください。最低 2.5 cm（1 インチ）の膨張空間を残すようにしてください。

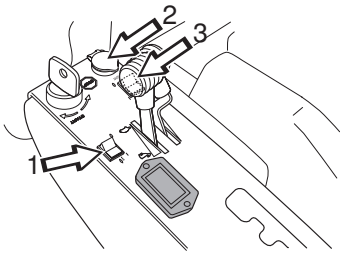


警告! ガソリンは、揮発性が高い燃料です。十分に注意して、給油は屋外で行うようにしてください（「安全注意事項」を参照）。

重要事項!

燃料タンクをサポートエリアとして使用しないでください。

ライトと電源出力



ライトは、コントロールパネルの電源スイッチ（1）でオン／オフします。

シートヒーターや携帯電話充電器などは、電源ソケット（2）に接続できます。

電源出力は、コントロールパネルの電源スイッチ（3）でオン／オフします。

電圧は 12 V です。

電源出力は、イグニションスイッチの下にある専用のヒューズで保護されます。

リリースレバー

エンジンの停止時に本機を動かすには、リリースコントロールを引く必要があります。

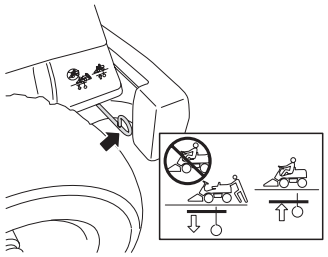
クラッチコントロールが引かれた状態で本機を動かそうとしても、本機が動くことはありません。コントロールの 1 つを引くと、アクスルの駆動装置はかかっていない状態になります。

最後の位置までコントロールを引いて、中間の位置を使用しないでください。

R 422 Ts AWD には、フロントアクスルとリヤアクスルに 1 つずつコントロールがあります。

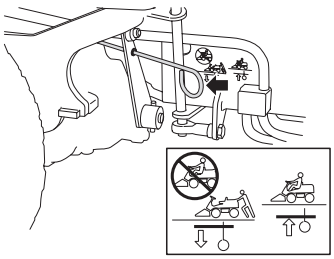
重要事項! 本機の運転は、常に両方のクラッチコントロールが押された状態で行います。

- クラッチコントロール、リヤアクスル



  - コントロールを引くと、エンジン駆動装置がかかっていない状態になります。
  - コントロールを押すと、エンジン駆動装置がつながります。
- クラッチコントロール、フロントアクスル

  このコントロールは、左フロントホイールの内側にあります。



  - リヤコントロールでは（コントロールを引くと）、エンジン駆動装置がかかっていない状態になります。
  - フロントコントロールでは（コントロールを押すと）、エンジン駆動装置がつながります。

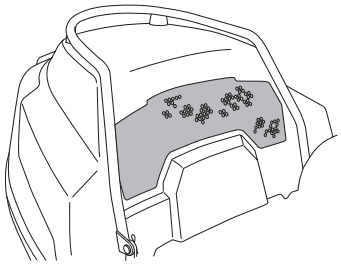
運転

始動前に

- 芝刈を始める前に、安全注意事項や、コントロールの配置と機能を確認しておいてください。
- メンテナンススケジュールに従って、芝刈の前には、必ず毎日のメンテナンスを行ってください。

警告! 10 度を超える斜面では、本機を使用しないでください。斜面を横切らず、上下に刈ってください。方向を急に転換しないでください。

重要事項 ドライバーシートの後ろ、エンジンカバー内にある空気取り込み口グリルが、衣服、葉、草、泥などで塞がれないように注意してください。エンジンが正常に冷却されないと、エンジンが重大な損傷を受ける可能性があります。

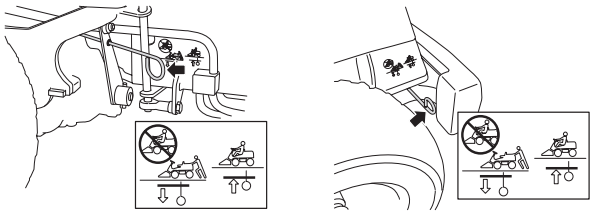


ブレードに飛ばされる可能性のある石などの物質を芝から取り除いてください。

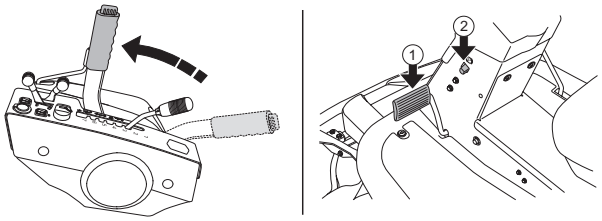
- 衝突を避けるために、岩やその他の固定物を見つけてマークを付けておきます。
- 高い刈高で作業を初めて、目的の長さになるまで高さを徐々に下げていきます。
- 本機を許容される最高のエンジン速度で作業し（ブレードを高速で回転させ）、低速で移動したときに、最高の結果が得られます。速度については「主要諸元」で確認してください。草がそれほど高くなく密生もしていない場合は、芝刈の質を大幅に低下させることなく、運転速度を上げることができます。
- 高い頻度で草を刈っている場合に、最高品質の芝が実現されます。この場合、芝刈の作業が均等に行われるようになり、地表での草の刈込がより均等になります。作業にかかる合計時間が大幅に増えることはありません。芝刈の品質を下げずに運転速度を上げられるためです。
- 濡れた芝は刈らないようにしてください。ホイールが柔らかい芝に沈むため、芝刈効果が落ちてしまいます。
- 使用するたびに、ホースを使ってカッティングユニットを水で洗浄してください。この場合、高圧の洗浄機を使用しないでください。カッティングユニットをサービスポジションに配置する必要があります。
- バイオクリップ機能を使用する場合、芝刈の間隔を長くあけないことが非常に重要です。

エンジンの開始

1 必ずクラッチコントロールを押してください。R 422 Ts AWD には、フロントアクスルとリヤアクスルに 1 つずつコントロールがあります。

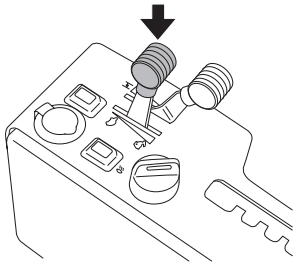


2 レバーを後方に引いて、ロック位置に入れてカッティングユニットを上昇させ（搬送位置）、駐車ブレーキをかけます。

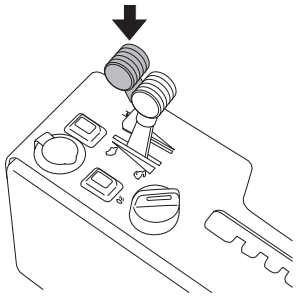


駐車ブレーキが下に押された状態になっていないと、エンジンは始動できません。

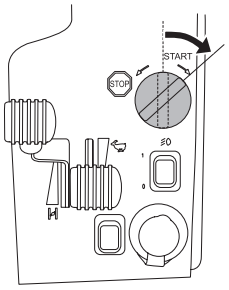
3 スロットルコントロールを中央の位置まで動かします。



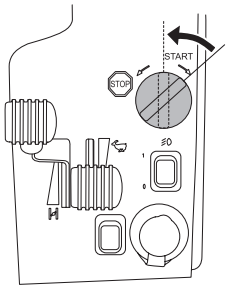
4 エンジンが冷えたら、チョークレバーを一番後方まで動かします。



5 イグニションキーを始動位置まで回します。

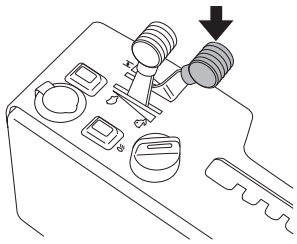


6 エンジンが始動したら、イグニションキーをすぐに放してニュートラルの位置に戻します。

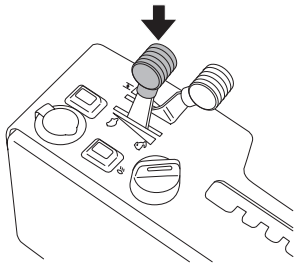


重要事項
スターターによる始動は、1 回につき約 5 秒以内にしてください。エンジンが始動されない場合、15 秒待ってからもう一度やり直してください。

7 エンジンが始動したら、チョークレバーを徐々に前方に押します。



8 重い負荷をかける前に、3-5 分間は通常の速度でエンジンを動かし続けるか、スロットルを半分くらいの位置にしておきます。



9 スロットルコントロールで必要なエンジン速度を出します。

警告! 閉所や換気が不十分な屋内ではエンジンを回さないでください。排気ガスには、有害な一酸化炭素が含まれます。

充電不足のバッテリーでのエンジンの始動

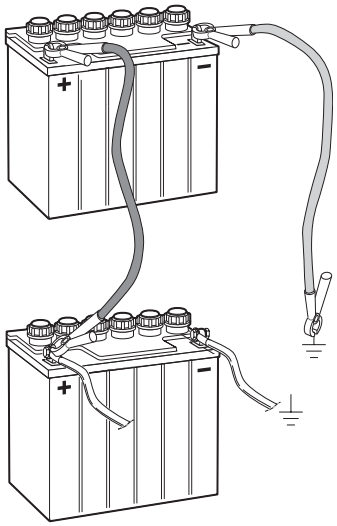
警告! 鉛酸バッテリーでは、爆発性のガスが発生します。バッテリーの付近では、火花、焚き火、およびタバコの火は避けてください。バッテリーの近くで作業を行う場合は、必ず保護メガネを装着してください。

バッテリーが充電不足でエンジンを始動することができない場合は、バッテリーを充電してください。

緊急にブースターケーブルを使用してエンジンを始動する場合は、次の手順に従ってください。

重要事項 Rider にはマイナスのアースが付いた 12 ボルトのシステムが装備されています。もう一方の車両にもマイナスのアースが付いた 12 ボルトのシステムが必要です。Rider のバッテリーを使用して別の車両を始動しないでください。

ブースターケーブルの接続



警告! 完全に充電されたバッテリーのマイナス端子は、放電したバッテリーのマイナス端子に絶対につながないでください（また近づけないでください）。水素ガスが存在していて、爆発する危険性があります。

- 赤いケーブルの両端を各バッテリーのプラス（+）極に接続します。ケーブルの端がシャーシに接触してショートしないように注意して行ってください。
- 黒いケーブルの一方の端を完全に充電されたバッテリーのマイナス（-）極に接続します。
- 黒いケーブルのもう一方の端を状態の良いシャーシアースに接続します。このとき、燃料タンクやバッテリーから離れた場所に接続してください。

逆の手順でケーブルを取り外す

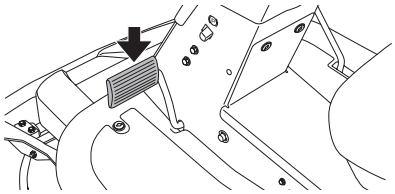
- 黒いケーブルをシャーシから取り外してから、完全に充電されたバッテリーから取り外します。
- 最後に赤いケーブルを両方のバッテリーから取り外します。

重要事項 ブースターチャージャー／スタートブースターは絶対に使用しないでください。

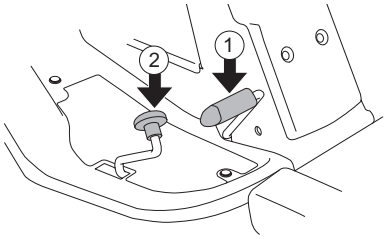
標準のバッテリー充電器のみを使用してください。エンジンを始動する前には、必ず充電器を取り外してください。いわゆるブースターチャージャー／スタートブースターは絶対に使用してはいけません。これらの装置はエンジン始動に必要な電力を得るために（電流ではなく）電圧を増加させるものが多く、高電圧により電気系統が損傷を受けます。

Rider の運転

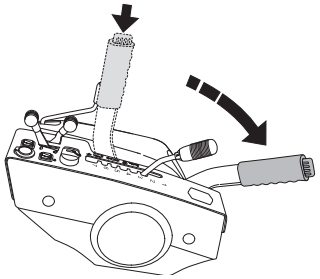
1 駐車ブレーキペダルをいったん踏み込んでから足を放すことで、駐車ブレーキを外してください。



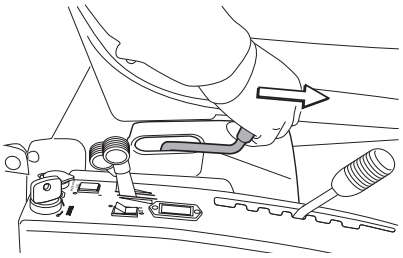
2 必要な速度になるまで、十分に注意してペダルを踏んでください。ペダル(1)は前進に使用され、ペダル(2)は後退に使用されます。



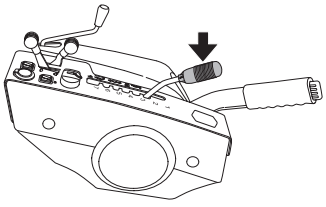
3 機械式リフトレバーのロックボタンを押して、カッティングユニットを下降させます。



カッティングユニットが完全に下降しない場合、またはブレードが回転しない場合には、油圧リフトレバーでカッティングユニットを完全に下降させます。油圧シリンダーを外側の位置にしっかり入れるために、レバーを前方位置に入れて 1/2 秒から 1 秒程度保持します。



4 刈高レバーで必要な刈高(1-10)を選択します。



均一な刈高を実現するには、両方のフロントホイールの空気圧を 60 kPa/0.6 bar/8.7 PSI にすることが重要です。

重要事項
ブレードの使用時に、低速でエンジンを駆動させると、ドライブベルトの寿命が大幅に長くなります。したがって、カッティングユニットが芝刈位置に移動したら、最初にフルスロットルでエンジンを動かします。

ブレーキ

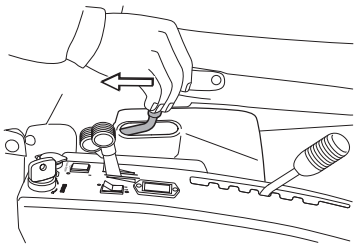
ドライブペダルを放します。本機が徐々に減速し、エンジン駆動装置が停止します。駐車ブレーキをドライブブレーキとして使わないでください。

反対方向のドライブペダルを踏み込むと、短時間でブレーキをかけることができます。

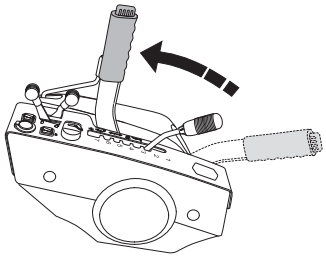
エンジンの停止

エンジンをオフにして、常に平らな場所に本機を駐車してください。スパークプラグにカーボンがたまる危険があるため、長時間エンジンをアイドリングしないでください。

1 油圧リフトレバーでカッティングユニットを上昇させます。

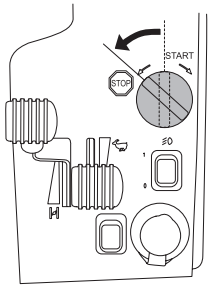


必要であれば、機械式リフトレバーを後方に動かしてロック位置に入れると、ユニットを上昇位置に固定できます。

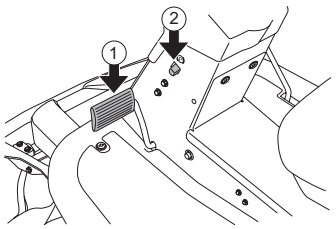


カッティングユニットが下降位置のままであれば、スタートロック回路がエンジンの始動を妨げていることが考えられます。

2 スロットルコントロールを MIN 位置に入れます。イグニションキーを「停止」位置まで回します。



3 Rider が停車位置に着いたら、駐車ブレーキを踏んでロックボタンを押し入れます。



メンテナンススケジュール

本機で実施すべきメンテナンスのリストは以下の通りです。この取扱説明書で説明していない事項については、認定されたサービスワークショップにお問い合わせください。

メンテナンス	始動前の毎日のメンテナンス	毎週のメンテナンス[3]	1 年に最低 1 回	時間を単位としたメンテナンス間隔			
				25	50	100	250
清掃	●						
エンジンの油面の点検	●						
エンジンの冷却エアインテークの点検	●						
燃料ポンプのエアフィルターの点検	●						
ステアリングワイヤの点検	●						
バッテリー液レベルの点検	●						
安全システムの点検	●						
ナットとネジの点検	O						
燃料とオイル漏れをチェックしてください。	O						
サイレンサ周辺の清掃	O						
エンジンとブレードを始動し、騒音のチェック	O						
トランスミッション空気取り込み口の清掃	●			●			
エンジンオイルの交換[1]			●		●[1]	●[1]	
カッティングデッキの点検	●			●			
ブレードの点検	●						
カッティングユニット下の清掃	●						
タイヤ空気圧の点検（60 kPa/8.5 PSI）				●			
ベルトテンション（ニップル）への注油		●		●			
運転席への注油		●					
ワイヤ類への注油		●					
カッティングユニットのベアリング面への注油		●					
フレームトンネルの清掃		●					
フレームトンネルのペダルシステムへの注油		●					
リンク付きハイドロスタティックケーブルへの注油		●					
駐車ブレーキの点検	●						
駐車ブレーキワイヤへの注油		●					
スロットルコントロールへの注油		●					
チョークコントロールへの注油		●					
フレームトンネルのチェーンへの注油		●					
フレームトンネル内のステアリングチェーンへの注油		●					
関節式ジョイントのワイヤーガイドの損傷点検		O					
エンジン周辺の徹底清掃		●					
トランスミッション周辺の徹底清掃		●					
V ベルトの点検				O			
ハイドロスタティックトランスミッションの冷却フィンの点検			●			●	
トランスミッション用オイルの油面の点検		●					

メンテナンス

メンテナンス	始動前の毎日のメンテナンス	毎週のメンテナンス[3]	1 年に最低 1 回	時間を単位としたメンテナンス間隔			
チョークワイヤの点検と調整					●		
ナットとネジの締め込み						O	
スロットルワイヤの点検と調整					●		
エアフィルターを清掃します。			●	●			
刈高設定の点検／調整			●		●		
駐車ブレーキの点検／調整			●		●		
エンジンとハイドロスタティックトランスミッションの冷却フィンの清掃[2]					O		
エアフィルターを交換します。							●
燃料フィルターの交換						●	
スパークプラグの交換						●	
ギアボックスのオイル[4、5]とフィルター[4、5]の交換が必要かチェック			O				
エンジンオイルフィルターの交換			●			●	
油圧タンクのサクションフィルターの交換[4]			O				
サービススケジュールに従って、フロント／リヤホイールの回転速度を確認する[4、5]			O	O			
300 時間経過後のメンテナンス実施[4]							O

[1] 8 時間経過後に最初の交換を行います。負荷が大きい芝刈の場合、または周囲の温度が高い場合、50 時間おきに交換します。[2] 埃っぽい環境では、メンテナンスと交換を短い間隔で実施してください。[3] 本機が日常的に使用されている場合、1 週間に 2 回は注油する必要があります。[4] 認定されたサービスワークショップで行います。[5] R 422 Ts AWD の場合にのみ、8 時間経過後に最初の交換を行います。

● = この取扱説明書で説明しています

O = この取扱説明書で説明していません

警告! エンジンまたはカッティングユニットのメンテナンスを行う場合は、必ず次の操作を行ってください。

エンジンをオフにします。

駐車ブレーキをかけます。

イグニションキーを抜きます。

カッティングユニットを停止した状態にします。

イグニションケーブルをプラグから抜きます。

重要事項! 本機の稼働中は、ホースが高圧になります。油圧システムが稼働しているときは、ホースの取り外しを行わないでください。重大な人的傷害を引き起こすことがあります。

清掃

本機は使用直後に清掃してください。刈り取った草は、乾燥する前の方がはるかに簡単に洗い流すことができます

重要事項 メンテナンスを行う場合は、平らな場所に本機を駐車して、必ずエンジンを停止してください。

油汚れは低温の脱脂剤で落とすことができます。表面に薄く残っている汚れに噴霧します。

通常の水圧で洗い流します。

電子部品またはベアリングには、水流を向けないでください。

エンジンや排気システムなど、熱を帯びている表面には水をかけないでください。

残っている水滴を飛ばすために、清掃後は短い時間、エンジンを始動して芝刈機を動かすことをお勧めします。

清掃後、必要に応じて本機に注油します。ベアリングに脱脂剤や水流が当たった場合、補足的に注油を行ってください。

重要事項 高圧洗浄機またはスチームクリーナーは使用しないでください。ベアリングや電気接続に水気が侵入する危険性が高くなります。

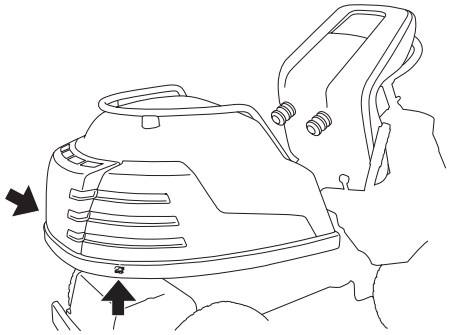
部品が浸食されて、走行時の問題に至る可能性があります。洗浄用の添加物は、一般的に損傷を悪化させます。

本体フードの取り外し

エンジンカバー

シートを最前方まで引っ張ります。シートを折り畳みます。

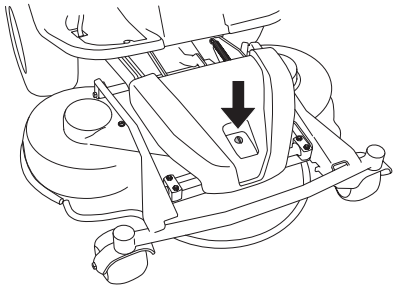
エンジンカバーのスナップキャッチを後方に引きます。スナップキャッチはエンジンフレーム内にあります。



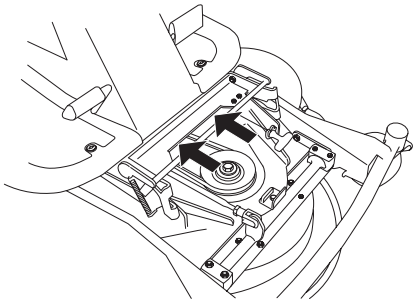
エンジンカバーを前方に開きます。

フロントカバー

フロントフードのクリップを外して、フェンダーを取り外します。

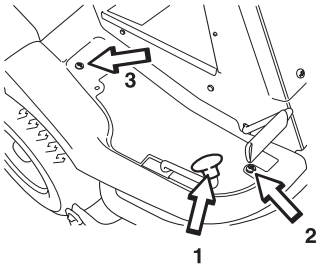


フロントカバーはユニットフレームにフック 2 個で固定されています。



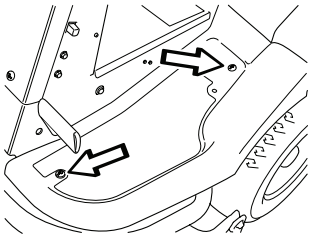
右側のフェンダー

アクセルノブ (1)、ネジ (2 と 3) を取り外して、カバーを取り外します。



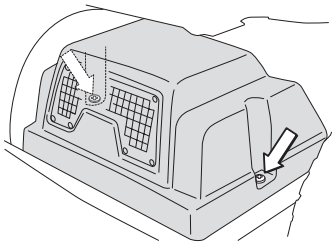
左側のフェンダー

ウィングカバー (2) を固定しているネジを緩めて、カバーを取り外します。



トランスミッションカバー

2 個のネジ (側面に 1 個ずつ) を外して、トランスミッションカバーを取り外します。



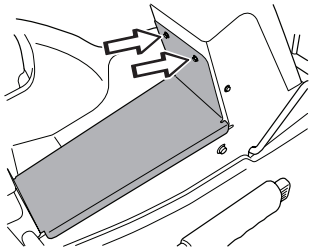
ステアリングワイヤの点検と調整

ステアリングはワイヤで制御されます。

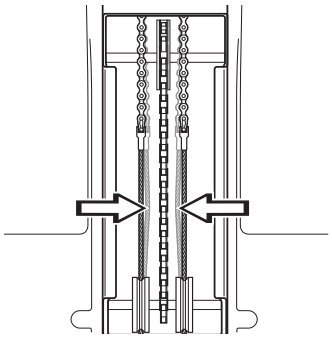
ワイヤは時間の経過とともに弛んできます。そのため、ステアリングの調整も変化することになります。

ステアリングは次のように点検、調整を行ってください。

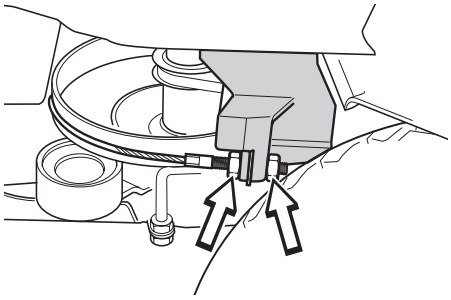
1 ネジ(2)を緩めて後端からフレームプレートを持ち上げて、フレームプレートを取り外します。



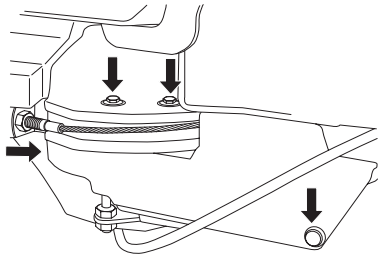
2 図に示すように、矢印の方向にワイヤを押すことで、ステアリングワイヤの張力を点検します。ワイヤを同時に押すと、特に力を入れなくても、ワイヤ間の距離が半分程度になるようにします。



3 ステアリングカラーのそれぞれの側で調整用のナットを締めることで、必要に応じてワイヤを調整できます。ケーブルを締めすぎないようにしてください。ケーブルがステアリングカラーに引っ張られる程度の張力で十分です。



4 ベルトシールドとサイドプロテクターのネジを緩めます。プロテクターは、本機の両側に装着されています。

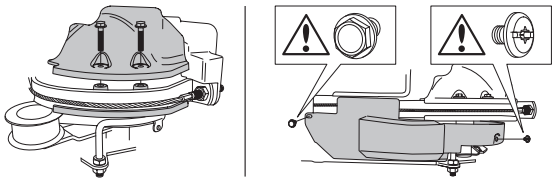


調整可能レンチなどを使用して、ねじれないようにケーブルを押さえます。

片側しか調整しないと、ステアリングの中心部に影響が出ます。

調整が完了したら、手順 2 で示したようにワイヤの張力を点検します。

5 ベルトシールドとサイドプロテクターのネジを締め込みます。それぞれの取り付け具で正しいネジを使用することを忘れないでください。



駐車ブレーキの調整

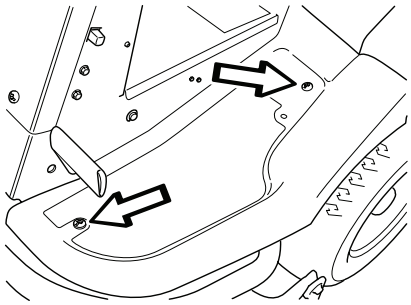
本機を斜面に移動して、フロントアクスルとリヤアクスルをかかっていない状態にすることで、駐車ブレーキが正しく調整されていることを確認します。

駐車ブレーキをかけてロックします。本機が静止しない場合は、次の手順に従って駐車ブレーキを調整する必要があります。

1 本機を平らな場所に移動します。

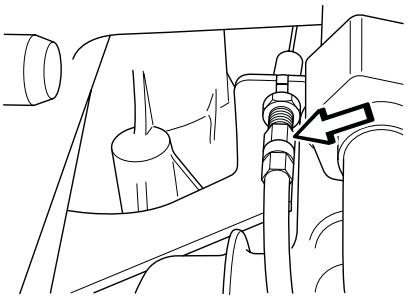
2 駐車ブレーキが解除されているか確認します。

3 左側のウィングカバーを取り外します。



4 ロックナットを緩めます。

5 ケーシングが片側に引っ張られている場合には、ケーシングと調整ネジ間の遊びを 1 mm(0.040 インチ)に調整します。これで、ペダルの遊びが約 40 mm に調整されます。



6 調整ネジが損傷しないように、ナットを慎重に締め込みます。

7 調整後にもう一度ブレーキを点検する必要があります。

8 左側のウィングカバーを取り付けます。

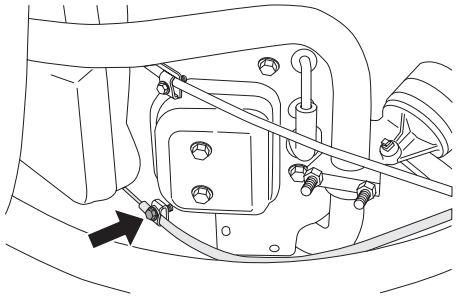
警告! 駐車ブレーキの調整が不適切である場合、ブレーキの性能が低下します。

スロットルワイヤの点検と調整

エンジンがスロットルコントロールに応答し、フルスロットル時に適切なエンジン速度に達するかチェックします。

不明な点があれば、サービス担当者にご連絡ください。

調整が必要であれば、以下のように下側のワイヤを調整します。



1 ケーブル外側のケーシングのクランプネジを緩めて、スロットルをフルスロットル位置に動かします。

2 スロットルワイヤが下側のレバーの正しい穴に接続されているかチェックします（図を参照）。

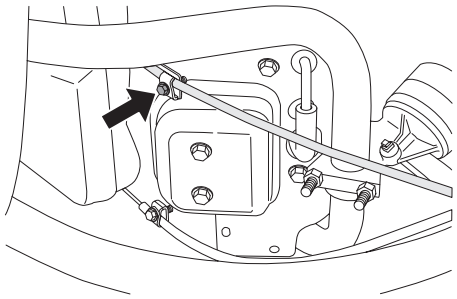
3 スロットルワイヤケーシングを左端まで引っ張り、クランプネジを締め込みます。

チョークワイヤの点検と調整

エンジンから黒煙が上がっていたり、なかなか始動できない場合には、チョークワイヤ（上側のワイヤ）が適切に調整できていない可能性があります。

不明な点があれば、サービス担当者にご連絡ください。

チョークの調整が必要であれば、以下を実施します。



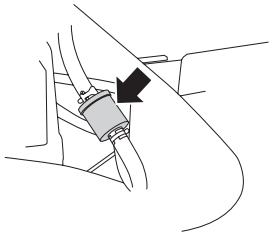
1 ワイヤケーシングを固定しているクランプネジを取り外して、チョークコントロールを最大まで上げます。

2 スロットルワイヤが上側のレバーに接続されているかチェックします（図を参照）。

3 チョークワイヤケーシングを一番右側に引いて、クランプネジを締め込みます。

燃料フィルターの交換

燃料フィルターは運転時間の 100 時間おきに交換します（季節ごとに 1 回）。また詰まる場合は、さらに高い頻度で交換します。



フィルターを次のように交換します。

1 エンジンカバーを開きます。

2 ホースクリップをフィルターから外します。平型プライヤーを使用します。

3 ホースの端からフィルターを取り外します。

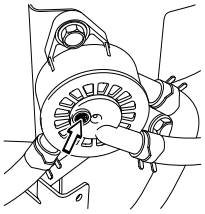
4 ホースの端に新しいフィルターを押し入れます。接続しやすいように、必要に応じて液体洗剤でフィルターの端を洗浄します。

5 ホースクリップをフィルターに戻して固定します。

燃料ポンプのエアフィルターの点検

燃料ポンプのエアフィルターが汚れないように定期的に点検してください。

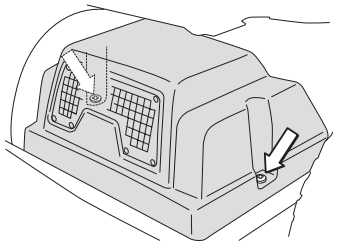
フィルターは必要に応じてブラシで清掃できます。



トランスミッションの空気取り込み口の点検

トランスミッションの空気取り込み口が塞がれていないかチェックします。

トランスミッションカバーを取り外して、必要であれば、トランスミッションの冷却フィンから刈り取った芝を取り除きます。



空気取り込み口が塞がれていたり、トランスミッションのハウジングに汚れがあると、冷却性能が落ち、トランスミッションに損傷が生じるおそれがあります。

エアフィルターを清掃します。

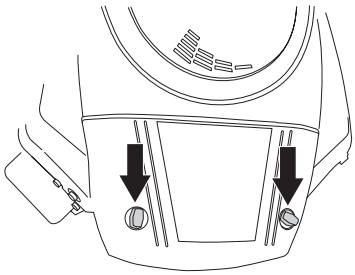
警告! 排気システムは高温になっています。システムが十分に冷えてから、エアフィルターを交換してください。

エンジンの出力が不足しているように見える場合、または順調に作動しない場合は、エアフィルターの詰まりが原因である場合があります。したがって、エアフィルターを定期的に交換することが重要です（メンテナンスの正しい間隔については、「メンテナンス」の「メンテナンススケジュール」を参照）。

エアフィルターを次のように交換します。

1 エンジンカバーを開きます。

2 フィルターカバーを所定の位置に固定しているノブを外して、カバーを取り外します。

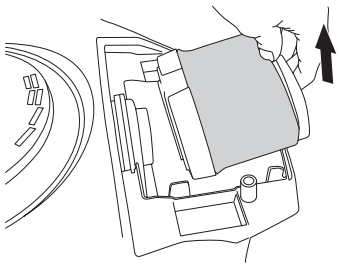


重要事項

エアフィルターを取り付けないでエンジンを始動しないでください。

フィルターにオイルを付けないでください。このフィルターは乾燥した状態で装着する必要があります。

3 一端を引き上げて、フィルターを引き抜きます。

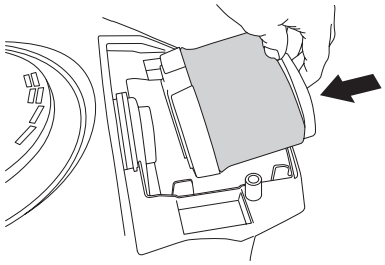


4 フィルターカートリッジの周囲に取り付けられている気泡ゴム製のプレフィルターを取り外して、中性洗剤を使用して清掃します。清潔な布でフィルターの水気をとります。

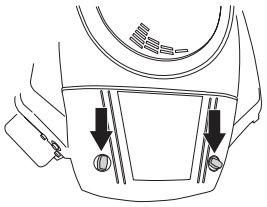
硬い表面にフィルターを慎重に打ち付け、埃を落とします。フィルターの清掃に圧縮空気を使用しないでください。清掃後も汚れが残っている場合には、エアフィルターを交換してください。紙フィルターに汚れが残っている場合には、新しいフィルターと交換してください。

紙フィルターにプレフィルターを取り付けます。

5 フィルターカートリッジを元の位置に取り付けます。フィルターカートリッジがフィルターハウジングに適切に取り付けられているか確認します。



6 エアフィルターカバーを再び取り付けます。



イグニションシステム

エンジンには、電子イグニションシステムが搭載されています。スパークプラグのみに、メンテナンスが必要です。

推奨のスパークプラグについては、「主要諸元」を参照してください。

重要事項

間違ったタイプのスパークプラグを装着すると、エンジンを損傷することがあります。

スパークプラグの交換

1 イグニションケーブルシューを取り外して、スパークプラグの周辺を洗浄します。

2 3/4 インチ（19 mm）のスパークプラグソケットレンチでスパークプラグを取り外します。

3 スパークプラグを点検します。電極が焼けている場合、または絶縁体にひびや損傷がある場合は、スパークプラグを交換します。まだ使用する場合は、スパークプラグをスチールブラシで清掃します。

4 電極間隔を間隔の測定器具で測定します。間隔は 0.75 mm（0.030 インチ）にする必要があります。必要に応じて、電極の側面を曲げて調整します。

5 スパークプラグを再び挿入して、ネジ山が損傷しないように手で回します。

6 手でスパークプラグを正しい角度で入れたら、スパークプラグレンチを使用してスパークプラグを締め込みます。ワッシャーが平らになる程度に、スパークプラグを締め込みます。新品ではないスパークプラグの場合、手で入れた位置から 1/8 回転ほど回す必要があります。新品のスパークプラグの場合、手で入れた位置から 1/4 回転ほど回す必要があります。

7 イグニションケーブルシューを交換します。

重要事項

スパークプラグの締め込みが不十分である場合、オーバーヒートが発生してエンジンが損傷する可能性があります。スパークプラグを締め込み過ぎると、シリンダーヘッドのネジ山が損傷する可能性があります。

エンジンとマフラーの清掃

エンジンとマフラーから刈り取った芝や汚れを取り除きます。刈り取った芝がエンジンのガソリンやオイルに入り込むと、火災の危険や冷却性能が落ちる危険が増します。

エンジンが十分に冷えてから、清掃します。オイルに汚れが混じった場合には、脱脂剤または水とブラシで取り除きます。

マフラー周辺に刈り取った芝が付着すると、短時間のうちに乾いて、火災の危険が高くなります。マフラーが冷えてから、ブラシか水で芝を落とします。

安全システムの点検

本機には安全システムが装備されており、以下の条件下では始動や運転ができないようにしています。

エンジンは、次の場合に限り始動できます。

- カッティングユニットが上げられている。
- 駐車ブレーキがかかっている。

エンジンは次の場合に停止します。

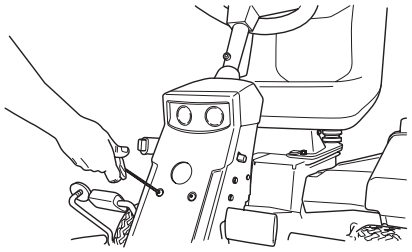
- カッティングデッキが下げられており、ドライバーがシートから立ち上がっている。
- カッティングデッキは上げられているが、駐車ブレーキがかかっておらず、ドライバーがシートから立ち上がっている。

上記のいずれかの条件が満たされていない場合にエンジンを始動して、安全システムが正常に機能していることを日常的に確認してください。条件を変更して、もう一度やり直してください。

電球の交換

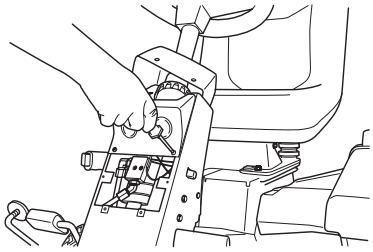
電球の型式に関する情報については、主要諸元を参照してください。

1 電源サーボハウジングのカバーを固定するネジ 2 本を取り外します。



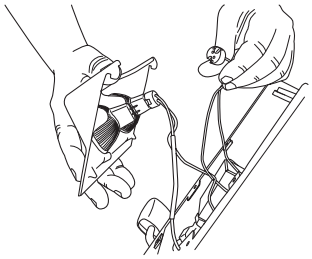
2 カバーを持ち上げて、ステアリングシャフトの周りを回転させます。

3 ランプはめ込み部のネジ 2 本を取り外します。



4 ランプはめ込み部を持ち上げます。

5 電球からケーブルを取り外します。



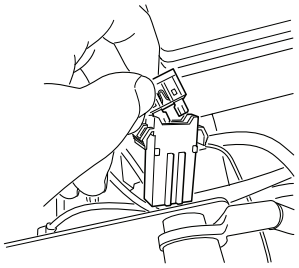
6 はめ込み部から電球を取り外します。

7 新しい電球を挿入します。必ず親指で前部を支えてください。

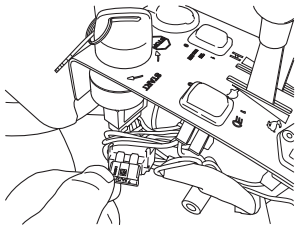
8 ケーブル、ランプはめ込み部、電源サーボハウジングのカバーを取り付けます。

メインヒューズ

メインヒューズは、バッテリーケースカバーの下、バッテリーの前にある取り外し可能なホルダに入っています。タイプ：フラットピン、15 A。



電源出力のヒューズは、コントロールパネルのサイドプレート後側のイグニションスイッチの下にあります。タイプ：フラットピン、7.5 A。



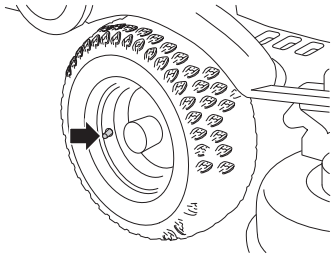
交換時に、異なるタイプのヒューズを使用しないでください。

焼き切れたコネクタからヒューズが切れていることがわかります。交換時にはホルダからヒューズを引き出します。

ヒューズは、電気システムを保護するために存在します。交換の直後に再びヒューズが切れた場合、原因はショートであると考えられます。本機を再び使用するには、この問題を先に解決する必要があります。

タイヤ圧の点検

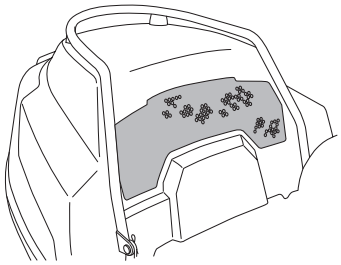
タイヤ圧は、すべてのホイールで 60 kPa（0.6 bar/9 PSI）にする必要があります。駆動力を高めるには、リヤタイヤの空気圧を 40 kPa（0.4 bar/5.6 PSI）まで下げることができます。最大タイヤ圧は 100 kPa（1.0 bar/14 PSI）です。



重要事項
フロントタイヤのタイヤ圧が異なると、芝を刈るブレードの高さが異なることになります。

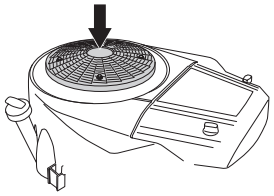
エンジンの冷却エアインテークの点検

ドライバーシートの後ろ、エンジンカバーの中にある空気取り込み口のグリルを清掃します。

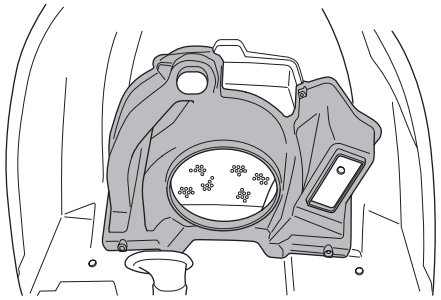


エンジンカバーを開きます。

冷却インテークに葉、草、汚れが付着していないことを確認します。



エンジンカバーの内側にあるエアダクトを点検して、ダクトがきれいであること、冷却エアインテークに木の葉などがこびりついていないことを確認します。



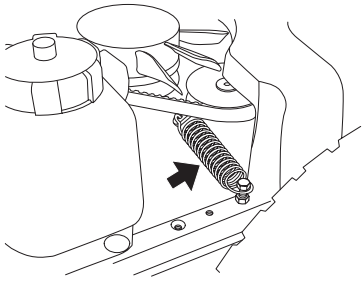
冷却インテークがふさがれている場合、エンジンが冷却されず、エンジンが損傷する可能性があります。

警告！冷却エアインテークは、エンジンが始動すると回転します。指に注意してください。

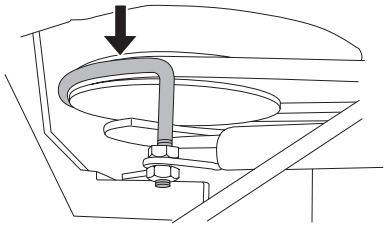
油圧ポンプのドライブベルトの交換（R422Ts AWD）

1 トランスミッションカバーを外します。

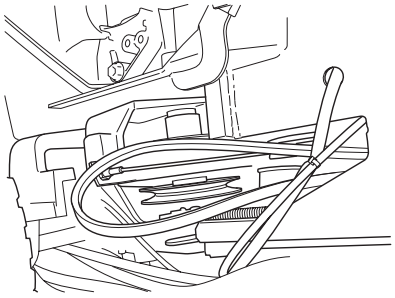
2 ベルトテンションのスプリングを外します。



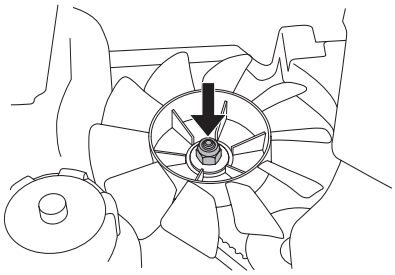
3 センターベルトのベルトガイドを取り外します。



4 エンジンのプーリーからセンターベルトを引っ張り、後部を引き出します。

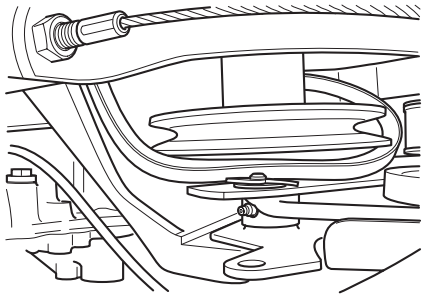


5 ナットで固定されている冷却ファンを取り外します。



6 ポンプのプーリーからベルトを取り外します。

7 エンジンのプーリーからベルトを外し、エンジンベルトプーリーの下に移動します。

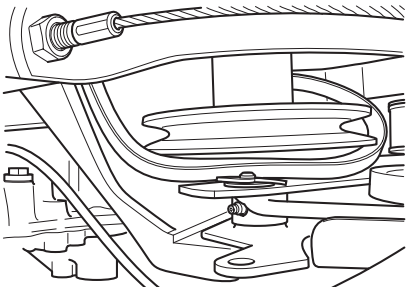


8 ピボットベアリング下の開口部からベルトテンションディスクを通してベルトを引き出します。

組み立て

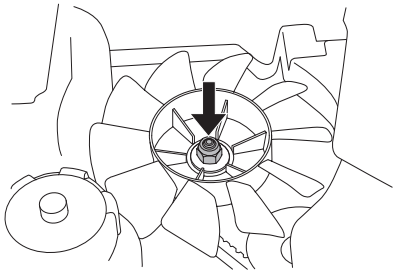
1 ピボットベアリング下の開口部からベルトテンションディスクの外側を通してベルトを引き出します。

2 エンジンベルトプーリー下からベルトを引っ張り、エンジンベルトプーリーに取り付けます。



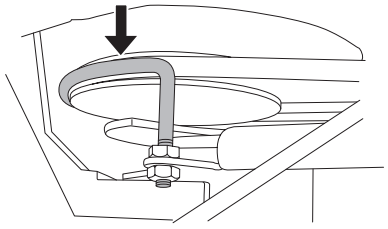
3 ポンプのプーリーにベルトを取り付けます。

4 冷却ファンを取り付けます。

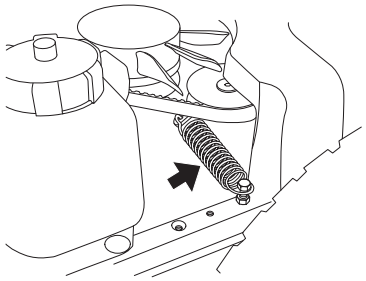


5 センターベルトがフロントプーリーに正しく装着され、エンジンのプーリーにセンターベルトが取り付けられているかチェックします。

6 センターベルトのベルトガイドを取り付けます。

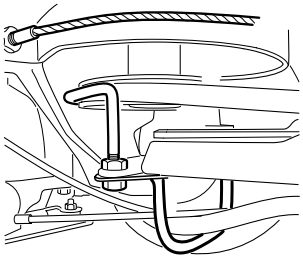


7 ベルトテンションにスプリングを取り付けます。



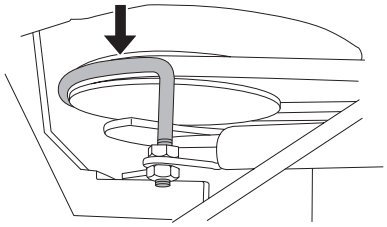
センターベルトの交換

センターベルトのリヤベルトガイドを取り外します。



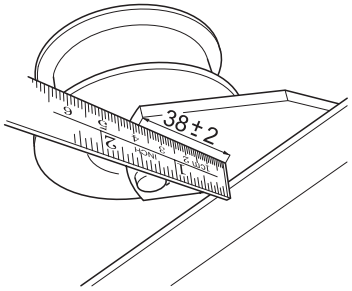
センターベルトを取り外し、新しいベルトを取り付けます。

エンジンベルトプーリーの下側のベルトにベルトガイドを取り付け、調整します。



ホースホルダを取り付けます。

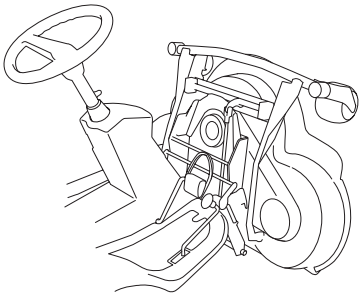
ベルトテンションを点検、調整します。新しいベルトを装着した場合、特に点検と調整が重要です。



フロントベルトの交換

スノーブレードを本機に取り付ける場合には、以下のようにベルトを取り外します。

1 ユニットをサービスポジションに入れます。「カッティングユニットのサービスポジション」を参照してください。

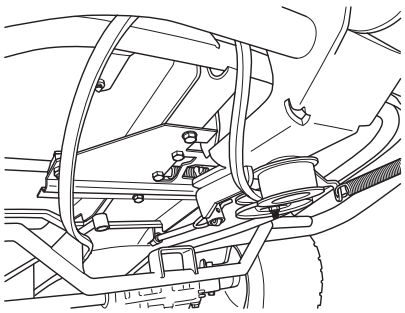


2 センタープーリーからセンターベルトを引き出します。カッティングユニットが上げられると、ベルトが緩みます。

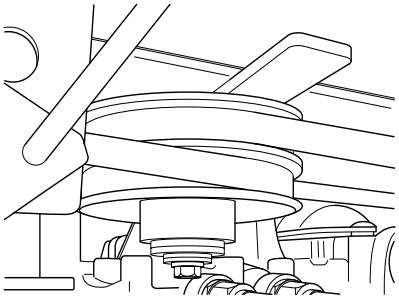
3 センタープーリーからフロントベルトを外して、ベルトを取り外します。

組み立て

1 センタープーリーにフロントベルトを取り付けます。フロントベルトをランナーホイールの外側、アイドラープーリーの内側に引っ張ります。



2 センターベルトをセンタープーリーに取り付けます。



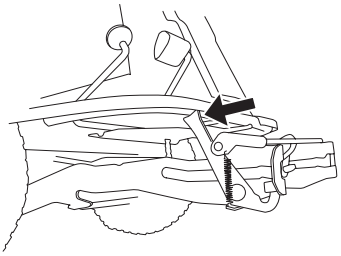
3 カッティングユニットをサービスポジションから芝刈り位置にリセットします。

カッティングヘッドの取り付け

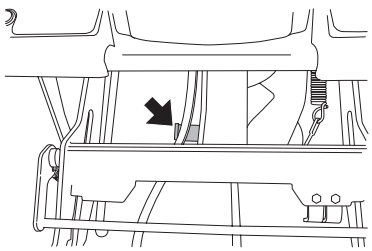
警告! カッティングユニットを取り付ける際には、保護メガネを着用してください。ベルトの張力を維持しているスプリングが破損して、人的傷害に至る可能性があります。

1 本機を平らな場所に移動し、駐車ブレーキをかけます。刈高を設定するレバーが一番低い位置に入っているかチェックします。

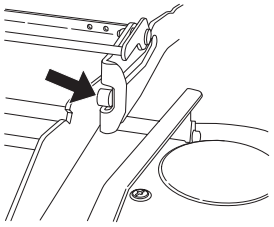
2 装置のフレームを下に押して、キャッチをフレームにはめ込みます。



3 ドライブベルトを取り外して、ベルトホルダに入れます。



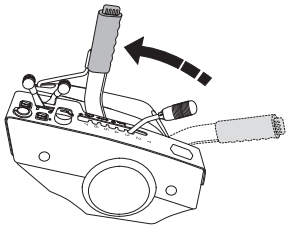
4 デッキを押し込んで、フロントガイドプラグを装置フレームの溝に片方ずつ押し込みます。



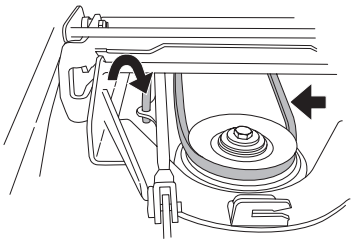
警告! 手を挟まれないように注意してください。

5 内部のプラグが装置フレームの溝にきっちりとはまるよう、ユニットを押し込んでください。

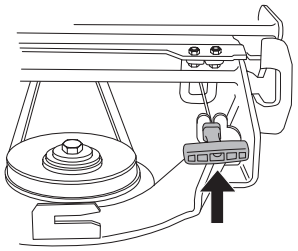
6 カッティングユニットの持ち上げ



7 カッティングユニットのドライブホイールの周囲にドライブベルトを装着します。高さ調整支柱を取り付けます。



8 コレットスプリングを固定します。



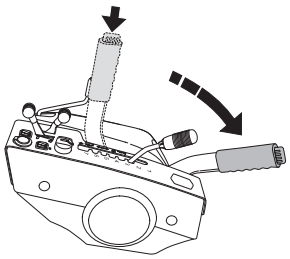
フロントカバーを取り付けます。

カッティングユニットの取り外し

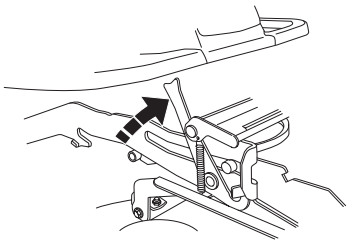
警告! カッティングユニットを取り外すときには、保護メガネを着用してください。ベルトの張力を維持しているスプリングが破損して、人的傷害に至る可能性があります。

1 1〜6 番を実施して、カッティングユニットをサービスポジションにセットします（カッティングユニットのサービスポジションの項参照）。

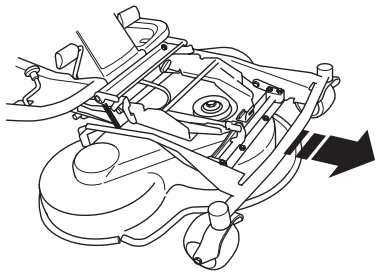
2 カッティングユニットを下降させます。



3 ユニットのキャッチを開きます。



4 カッティングユニットを引き抜きます。



警告! 手を挟まれないように注意してください。

カッティングユニットの接地圧の点検と調整

最善の刈込結果を実現するには、カッティングユニットは、過度に強く押すことなく芝生の表面をなぞる必要があります。

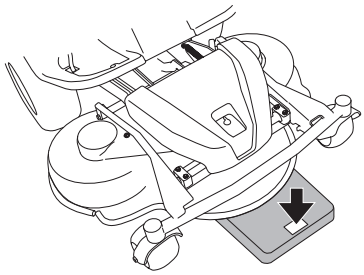
この圧力は、Rider の各側面にあるネジとスプリングで調整します。

1 タイヤの空気圧を点検します（60 kPa/0.6 bar/9 PSI）。

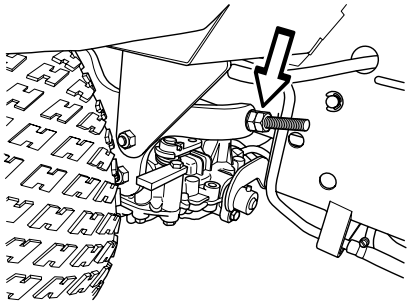
2 本機を平らな面に移動します。

3 リフトレバーを芝刈り位置に入れます。

4 カッティングユニットのフレームが体重計の上にくるように、カッティングユニットのフレームの下（前端）に体重計を置きます。サポートホイールによって質量が支えられないように、必要に応じて、フレームと体重計の間にブロックを入れることができます。



5 両側のフロントホイールの後ろにある調整ネジで、ユニットの接地圧を調整します。接地圧は 12-15 kg（26.5-33 ポンド）に調整します。



カッティングユニットの平行性の点検

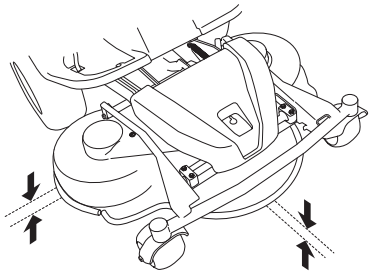
カッティングユニットの平行性を次のように点検します。

1 タイヤの空気圧を点検します（60 kPa/0.6 bar/9 PSI）。

2 本機を平らな面に移動します。

3 リフトレバーを芝刈り位置に入れます。

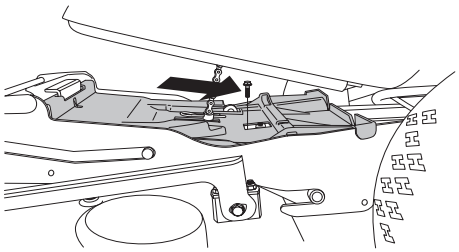
4 地面とカッティングユニットフードの前端および後端の間の間隔を測定します。後端が前端よりも 2-4 mm（1/8 インチ）高くなるように、カッティングユニットを多少斜めにする必要があります。



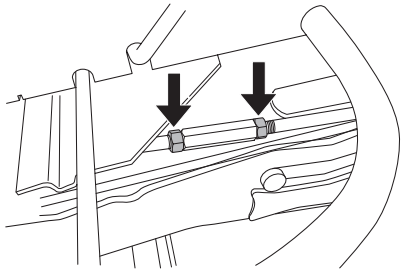
カッティングユニットの平行性の調整

1 フロントフードと右フェンダーを取り外します。

2 ベルトシールドのネジを外します。

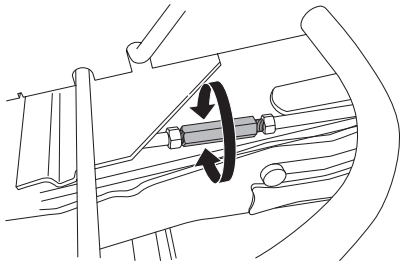


3 リフト支柱のナットを緩めます。



4 ステイのネジを外す方に回す（広げる）と、カバーの後端が上がります。

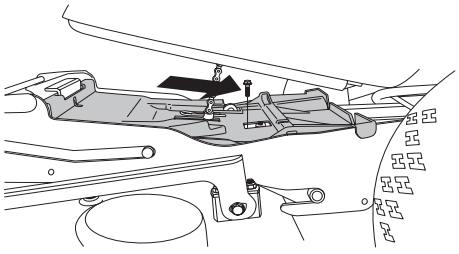
ステイのネジを入れる方に回す（縮める）と、カバーの後端が下がります。



5 調整した後でナットを締め込みます。

6 調整が完了したら、ユニットの平行性を再度確認する必要があります。

7 ベルトシールドのネジを締め込みます。



8 右フェンダーとフロントフードを取り付けます。

カッティングユニットのベルト交換

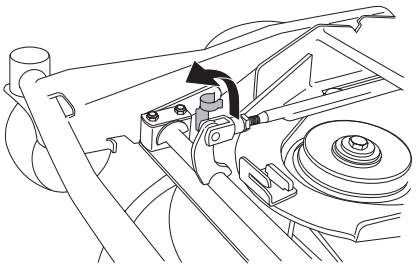
警告！ブレードを取り扱う場合は、保護手袋を装着して手を保護してください。

ベルトの取り扱い中、巻き込み事故による傷害の危険性があります。

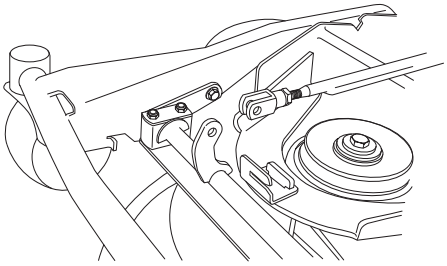
耐衝突ブレードを装備するカッティングユニットでは、V ベルト 1 本でブレードを駆動します。次の手順に従って、V ベルトを交換します。

1 カッティングユニットを取り外します。

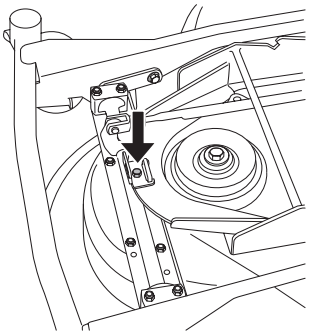
2 トラックロッドボルトのロックを開けます。



ボルトを外して、トラックロッドの片側を開放します。

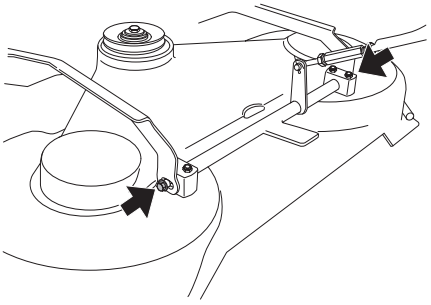


3 ユニットフレームブラケットを固定するボルトを取り外します。

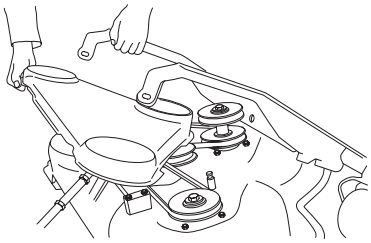


4 ロックを外して、ユニットフレームを取り外します。

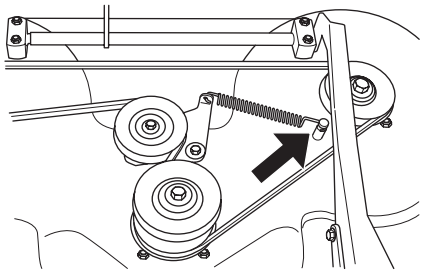
5 ユニットフレームのボルト 2 本を取り外します。



6 カッティングカバーのネジを取り外します。ユニットフレームを持ち上げ、カッティングユニットカバーを取り外します。



7 V ベルトの張力を維持するスプリングを緩めて、ベルトから取り外します。



これまでとは反対の手順で、新しいベルトを取り付けます。

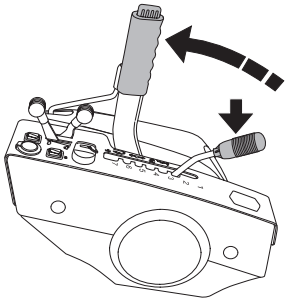
カッティングユニットのサービスポジション

清掃、修理、メンテナンスが簡単にできるように、カッティングヘッドをサービスポジションに入れることができます。サービスポジションでは、カッティングユニットが上げられ、垂直位置にロックされます。

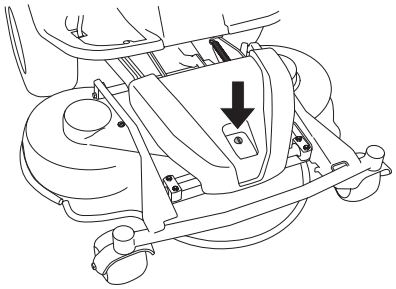
サービスポジションに移行する手順

1 本機を平らな場所に移動します。駐車ブレーキをかけます。

2 刈高コントロールを最も低い位置に入れて、カッティングユニットを持ち上げます。

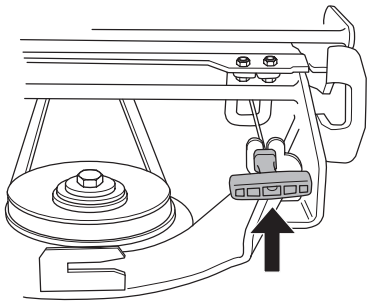


3 ピンを取り外して、フロントフードを取り外します。(フロントフード内でサービスポジションに入れる方法の詳細な説明を参照してください)。

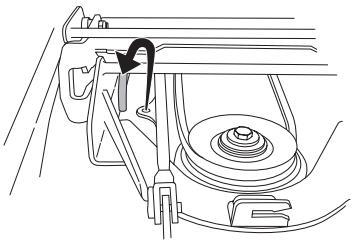


警告! カッティングユニットを取り外すときには、保護メガネを着用してください。ベルトの張力を維持しているスプリングが破損して、人的傷害に至る可能性があります。

4 ドライブベルトテンションホイールのスプリングを取り外します。

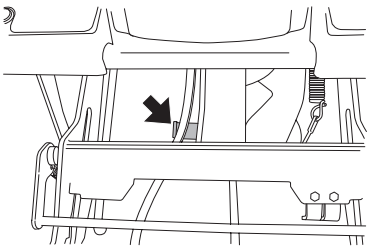


刈高ステイを緩めて外し、ホルダに移します。

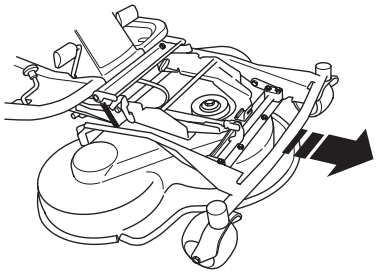


警告! 手を挟まれないように注意してください。

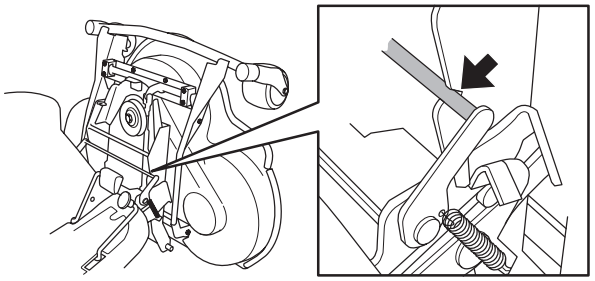
5 ドライブベルトを取り外して、ベルトホルダに入れます。



6 ユニットの前端を握り、止まるまで前方に引き出します。



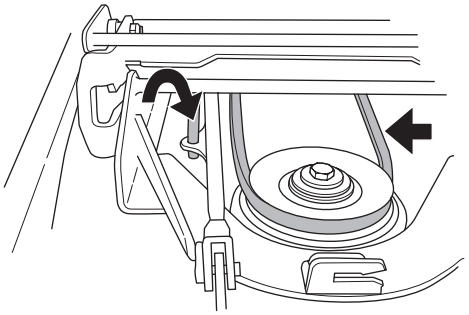
7 所定の位置で止まってカチッという音が聞こえるまでユニットを持ち上げます。ユニットは、垂直位置に自動的にロックされます。



サービスポジションから戻す手順

1 ユニットの前端を握ってロックを外し、ユニットを引き下げて本体へスライドしながら挿入します。

2 刈高ステイとベルトを再び取り付けます。



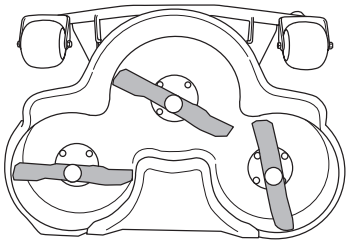
3 ベルト調整ネジでベルトの張力を調整します。

4 フロントカバーを取り付けます。

ブレードの点検

最善の芝刈結果を実現するには、ブレードに破損がなく、目立てが十分に行われていることが重要です。

ブレードの固定ネジがしっかりと締め込まれていることを確認してください。



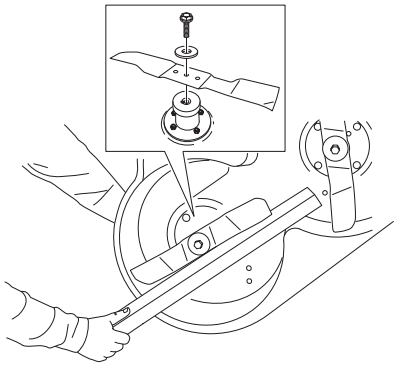
ブレードが石などの異物にぶつかった場合には、点検してから作業を再開します。

重要事項

破損があった場合、または目立ての後でバランスが崩れた場合、バランスが崩れた 1 個以上のブレードにより、本機で振動が生じる可能性があります。

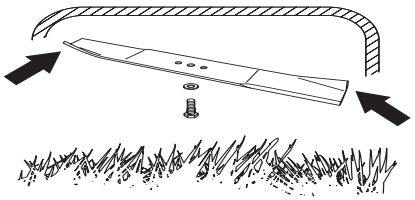
ブレードの交換

- ユニットをサービスポジションに入れます。「カッティングユニットのサービスポジション」を参照してください。
- 木のブロックでブレードをロックします。ブレードのボルトを緩めて、ブレードボルト、ワッシャー、およびブレードを取り外します。



逆の順序で部品を組み立てます。

- ブレードは、跳ね上がった端の部分をカバーに向けて取り付ける必要があります。



- トルク 45-50 Nm（4.5-5 kpm/32-36 lbft）で締め込みます。

警告! ブレードを取り扱う場合は、保護手袋を装着して手を保護してください。

重要事項 常に注意を払い、常識に適った使用方法で操作してください。使用者の能力範囲外であると思われる場合は、操作を行わないでください。これらの注意事項を読んだ後でも、不明点などがある場合は、使用を続けずに専門コンサルタントにご相談ください。認定されたサービスワークショップにお問い合わせください。

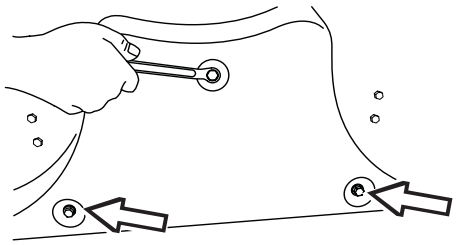
必ず純正部品をお使いください。詳しくは、「主要諸元」を参照してください。

バイオクリッププラグの取り外し

コンビユニットをバイオクリップ機能から後方排出のカッティングユニットに交換するには、ユニット下にネジ 3 本で取り付けられているバイオクリッププラグを取り外します。

1 ユニットをサービスポジションに入れます。「サービスポジションに移行する手順」を参照してください。

2 バイオクリッププラグを所定の位置に固定している 3 本のネジを外して、プラグを取り外します。



3 ヒント：M8x15 mm の全ネジを 3 本ネジ穴に入れてネジ山を保護します。

4 ユニットを通常の位置に戻します。

バイオクリッププラグの取り付けは、逆の手順で行います。

潤滑剤の使用

全般

予期しない動作を避けるため、注油中にはイグニションキーを抜いてください。

オイル缶から注油する際には、エンジンオイルを充填してください。

グリースを塗布する際には、特に指示のない場合、503 98 96-01 のグリースまたは耐腐食性の高いシャーシ／ボールベアリンググリースを使用してください。

本機が日常的に使用されている場合、1 週間に 2 回は注油する必要があります。

注油後、余分なグリースをふき取ってください。

ベルトやベルトプーリーのドライブ表面に潤滑油が付着しないよう注意してください。誤って潤滑油が付着してしまったら、アルコールでふき取ってください。アルコールでふき取ってもベルトが滑る場合には、交換が必要です。

ガソリンなどの石油製品は、ベルトの清掃に使えません。

アクセサリ

オプション装置やアクセサリーへの注油やその他のメンテナンスについては、本説明書に記載はありません。しかし、オプション装置やアクセサリーにもメンテナンスが必要です。詳細については、各アクセサリーの説明書を参照してください。

ケーブルへの注油

ケーブルの両端にグリースを塗り、末端位置までコントロールを移動させて、注油します。

注油後、ケーブルにゴムカバーを再度取り付けます。

シース付きのケーブルは、定期的に注油しないとロックすることがあります。ケーブルがロックすると、駐車ブレーキの作動など、不具合が発生するおそれがあります。ケーブルが絡まった場合、ケーブルを取り外して、垂直に吊るしてください。端部からオイルが滴るまで、エンジンオイルを少量ずつ注油してください。

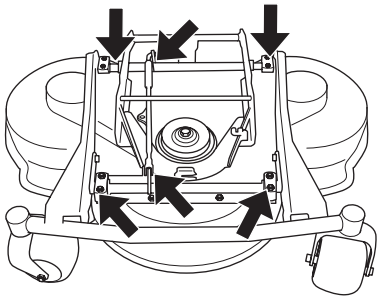
ヒント：ビニール袋にオイルを少量入れ、ケーシングにかぶせてテープを貼り、袋からケーブルが垂直に垂れるようにして、一晩おきます。ケーブルへの注油がうまくいかない場合には、交換してください。

カッティングユニット

フロントカバーを取り外します。

オイルを塗布します。

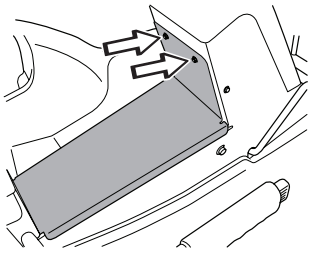
- ジョイントとベアリング



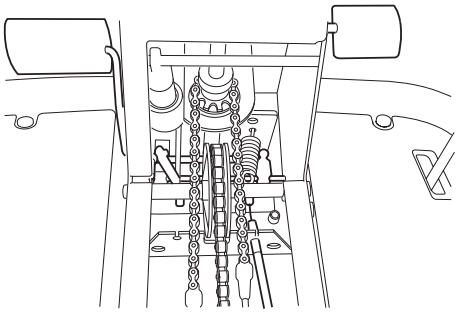
フレームトンネルのペダルシステム

フレームトンネルのペダルシステムに注油します。

- ネジを緩めて（ステアリングサーボハウジングのネジ 2 本）、フレームトンネルのカバーを取り外します。



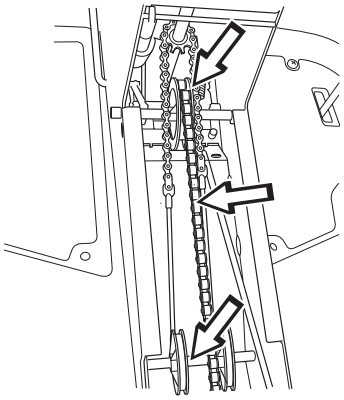
- ペダルを踏んで、可動部品に注油します。ブレーキやドライブペダルのケーブルに注油します。



フレームトンネルのチェーン

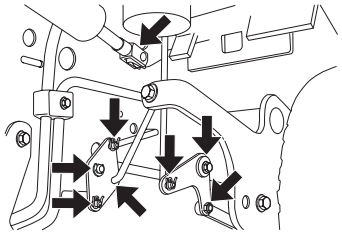
ネジ 2 本を緩めて、フレームプレートを取り外します。

フレームトンネルのチェーンにオイルを塗布するか、チェーン潤滑スプレーを吹きかけます。ステアリングケーブルのプーリー軸にグリースを塗布します。



刈高調整のリンクとジョイント

右側のフロントホイールの後ろにある刈高調整ステイのリンクとジョイントに注油します。オイルを塗布します。

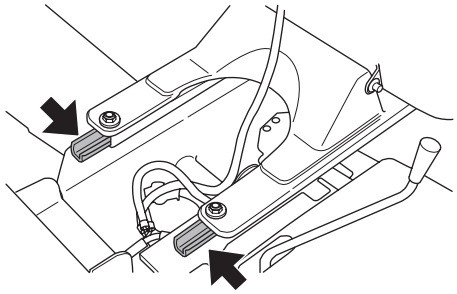


潤滑剤の使用

運転席

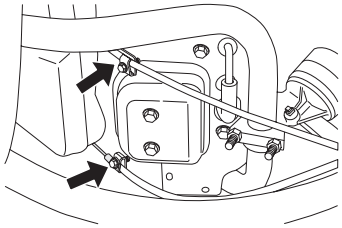
シートを折り畳みます。

前後調整ランナーにオイル缶で注油します。

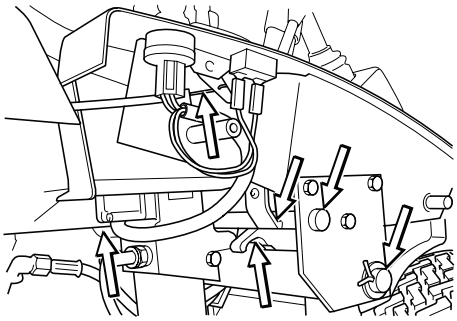


スロットルとチョークケーブル、レバーベアリング

- レバーハウジングの右カバーを取り外し（ネジ 3 本）、エンジンカバーを開けます。
- ケーブルの自由端にオイル缶で注油します（エンジンのそばの終端も）。
- 各コントロールを末端位置まで移動し、もう一度注油します。



- カッティングユニットのコントロールレバーのジョイント、キャッチ、ベアリングに注油します。

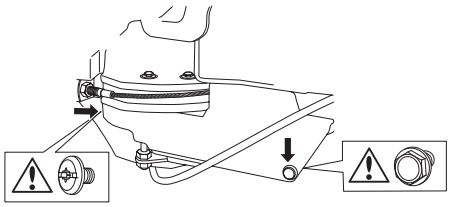


レバーハウジングのサイドカバーを交換します。

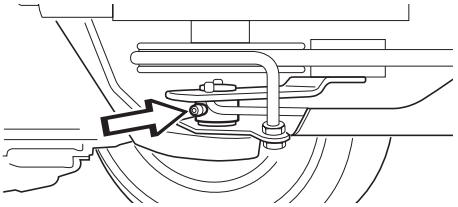
ベルト調整ネジへの注油

ベルト調整ネジには、高品質の二硫化モリブデングリース * を使用して、定期的に注油する必要があります。

1 ベルトシールドのネジを外します。

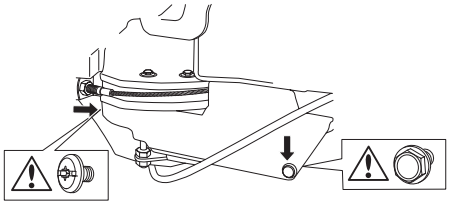


2 グリースガンと 1 個のニップルを使用して、エンジン下部にあるベルトプーリーの下、右側の位置から、グリースがあふれるまで注油を行います。



3 高品質-ルドのネジを締め込みます。

4 ベルトシールドのネジを締め込みます。



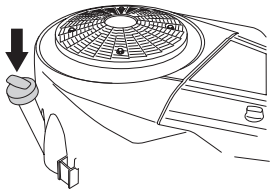
*有名ブランド（石油化学会社など）のグリースでは、通常、品質が高く保たれています。

エンジンオイルの油面の点検

エンジンスイッチを切って Rider を水平な場所に移動して、エンジンの油面を点検します。エンジンを回した状態でオイルを点検しないでください。

エンジンカバーを開きます。

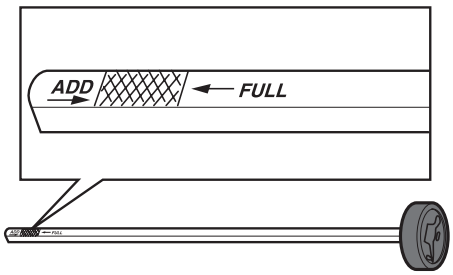
オイルレベルゲージを緩めて引き上げ、布でオイルを拭き取ります。



オイルレベルゲージを戻して、締め込まないでおきます。

オイルレベルゲージを再び引き上げ、油面の高さを確認します。

油面の高さは、オイルレベルゲージの 2 つのマーク間に収まる必要があります。油面の高さが ADD マークに近づいている場合、オイルレベルゲージの FULL マークまでオイルを補充します。



オイルは、オイルレベルゲージを抜いた穴から注入します。

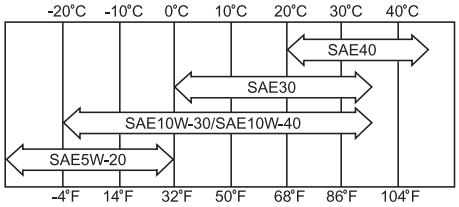
エンジンを始動する前に、オイルレベルゲージを適切に締め込んでください。エンジンを始動して、約 30 秒間アイドリングの状態を保ちます。モーターを停止します。30 秒待って、油面を点検します。油面の高さがオイルレベルゲージの FULL マークに達するまで、必要に応じて注油を繰り返します。

以下のクラスのオイルを推奨します。

- API サービスクラス：SF、SG、SH および SJ

潤滑剤の使用

図に示した温度範囲に応じてオイルの粘度を選択してください。



異なるタイプのオイルを混合しないでください。

5W-20、10W-30 および 10W-40 などのオイルを使う際には、エンジンのオイル消費が増加するので注意してください。この種のオイルを使用する必要がある場合には、油面の位置を頻繁にチェックしてください。

エンジンオイルの交換

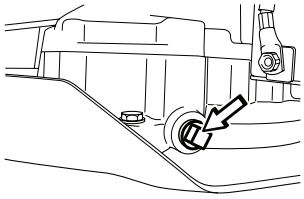
エンジンカバーを開きます。

初めて 8 時間運転した後は、エンジンオイルを交換する必要があります。その後は運転時間が 100 時間経過するごとに交換してください。

負荷が大きい芝刈の場合、または周囲の温度が高い場合、50 時間おきに交換します。

警告! エンジンを停止した直後にエンジンオイルを排出すると、エンジンオイルが非常に高温になっている可能性があります。まずエンジンが冷えるまで、しばらく待ってください。

1 エンジンの左側にあるオイルドレンプラグの下に容器を置きます。



2 オイルレベルゲージを外します。エンジンの左側からドレンプラグを外します。

3 コンテナーへオイルを排出させます。

4 ドレンプラグを取り付けて締め込みます。

5 油面の高さがオイルレベルゲージの FULL マークに達するまで、必要に応じて注油を繰り返します。オイルは、オイルレベルゲージを抜いた穴から注入します。

6 エンジンを暖機運転して、オイルプラグから油漏れがないことを点検します。

エンジンオイルレバーをチェックして、必要であれば補充します。

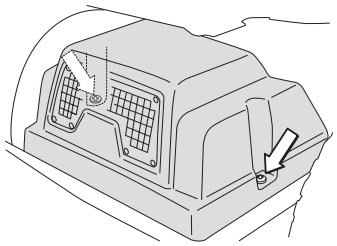
重要事項

使用済みエンジンオイルや不凍剤などは健康を害するため、地面あるいは自然界へ廃棄してはいけません。サービスワークショップまたは適切な廃棄場所へ廃棄するようにしてください。

皮膚への接触を避けて、こぼした場合は石鹸と水で洗い流してください。

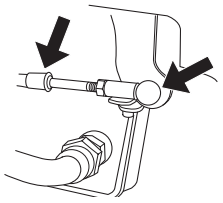
リンク付きハイドロスタティックケーブルへの注油

トランスミッションカバーを外します。



左側のジョイントとベアリングに注油します。

ゴムのケーシングを取り外し、ハイドロスタティックトランスミッションケーブルにオイルを塗布します。



ペダルを数回踏み込み、もう一度注油して、ゴムのケーシングを取り付けます。

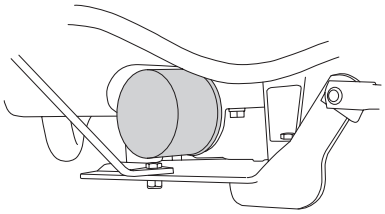
トランスミッションカバーを交換します。

オイルフィルターの交換

警告!
エンジンを停止した直後にエンジンオイルを排出すると、=エンジンオイルが非常に高温になっている可能性があります。まずエンジンが冷えるまで、しばらく待ってください。

エンジンカバーを開きます。

- 古いオイルフィルターを取り外す場合は、反時計回りにフィルターを回します。必要に応じて、フィルター取り外し用の工具を使用します。



- 新しいオイルフィルターのゴム製シールには、新しいオイルを使用して軽く注油しておきます。
- 時計回りに回して、オイルフィルターを取り付けます。ゴム製シールがはまるまで手で回してください。ここで半回転ほど、さらに回して締め込みます。
- エンジンを始動して、約 3 分間アイドリングの状態を保ちます。ここでエンジンを停止して、漏れの兆候がないか点検します。
- エンジンオイルレバーをチェックして、必要であれば補充します。

重要事項!

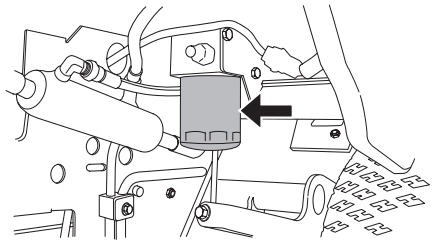
使用済みのエンジンオイルとトランスミッションオイルは健康に被害をもたらします。屋外の地面などに廃棄してはいけません。

交換したフィルターは、ワークショップに持っていくか、指定の廃棄場所に廃棄してください。

皮膚への接触を避けて、こぼした場合は石鹸と水で洗い流してください。

油圧オイルフィルターの交換

- 古いオイルフィルターを取り外す場合は、反時計回りにフィルターを回します。必要に応じて、フィルター取り外し用の工具を使用します。



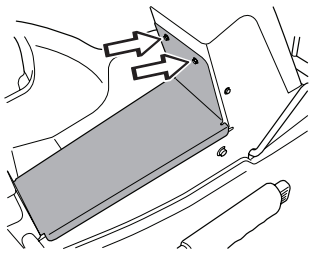
- 新しいオイルフィルターのゴム製シールには、新しいオイルを使用して軽く注油しておきます。
- フィルターが接触するまで手で締め込み、そこからさらに 3/4 回転締め込みます。トランスミッションカバーを取り外し、トランスミッション用オイルタンクに約 0.3 リットル、オイルを補充します。エンジンの始動時には以下を順守し、タンクが空にならないよう適宜補充します。

エンジンが温まったら、サーボステアリングを操作して、オイルフィルターシールの周辺に漏れがないかチェックします。

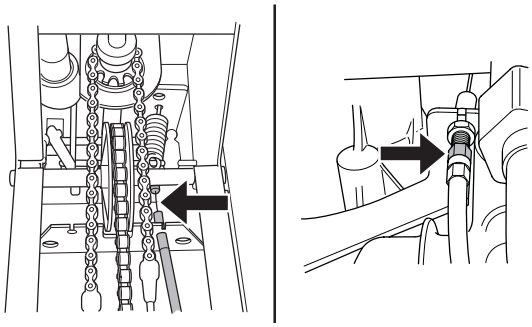
- トランスミッション用オイルの油面をチェックし、必要があれば補充します。オイルフィルターに 0.3 リットルのオイルを染み込ませます。
- トランスミッションカバーを交換します。

駐車ブレーキワイヤへの注油

- ネジ 2 本を緩めて、フレームプレートを取り外します。



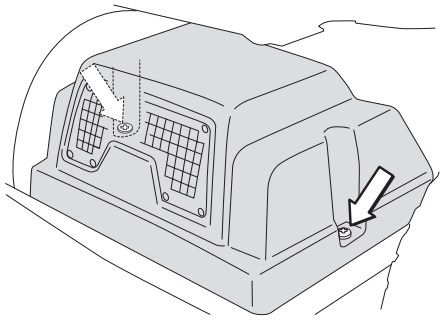
- 左側のウィングカバーを取り外します。
- ケーブル両端に注油します。



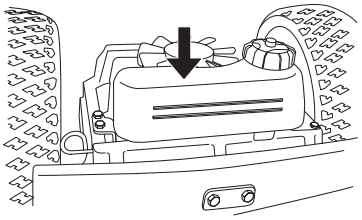
- 注油する際には、ケーブルのゴムケーシングを取り外します。
- ケーブルにオイルを注油し、駐車ブレーキペダルを数回踏み込んで、もう一度注油します。
- フレームプレートとウィングカバーを取り付けます。

トランスミッション用オイルの油面の点検

- トランスミッションカバーを外します。2 個のネジ（側面に 1 個ずつ）を外して、トランスミッションカバーを取り外します。



- トランスミッションのオイルタンクにオイルが入っていることを確認します。



- 化学合成オイル 10W/50 を使用して、必要に応じて充填します。
- トランスミッションカバーを交換します。

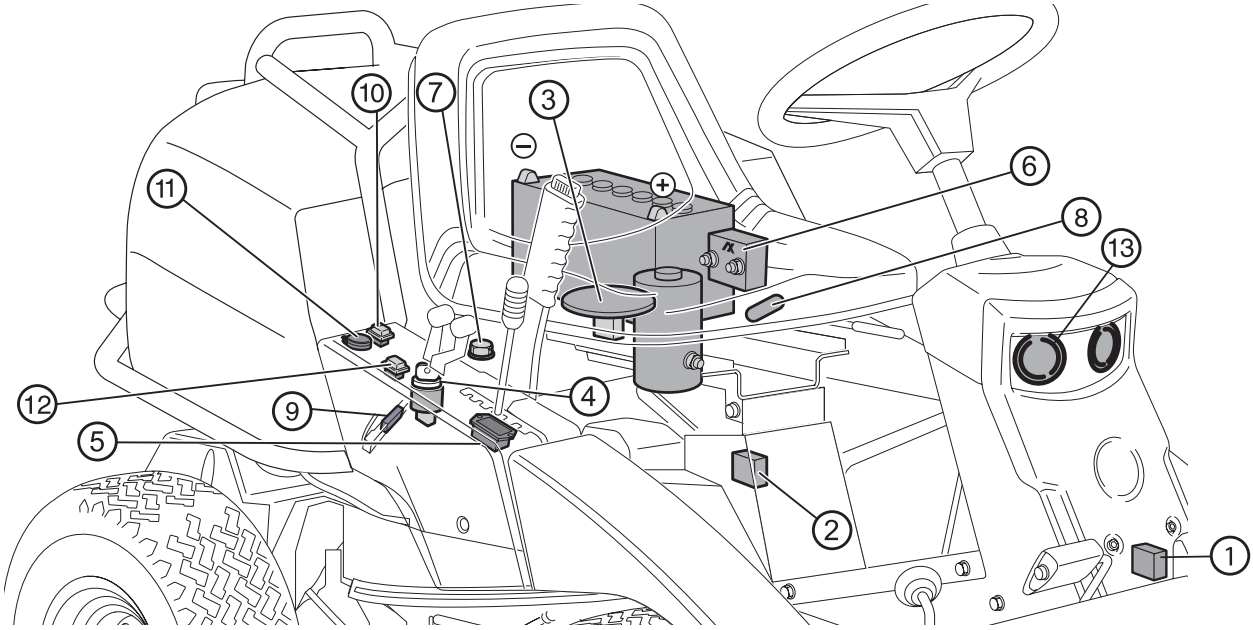
サービスマニュアルで説明されているように、オイルとフィルターは、認定されたサービス担当者が交換する必要があります。システムで行われるメンテナンスでは、特に洗浄度に対する必要性が大きく、本機を使用する前にシステムでオイル等を循環させる必要があります。

トラブルシューティング

問題	原因
エンジンが始動しない	燃料タンクに燃料がありません。
	スパークプラグに欠陥があります。
	イグニションケーブルに不具合があります。
	キャブレターまたは燃料ラインに異物があります。
	セルモーターでエンジンが回りません。
	安全スイッチに不具合があります。
セルモーターでエンジンが回らない	バッテリーの消耗
	ケーブルとバッテリーの接触不良です。
	カッティングユニットのレバーを間違った位置に入れています。
	メインヒューズが切れています。
	イグニションロックに欠陥があります。
	ブレーキがかかっていません。
	セルモーターに欠陥があります。
エンジンがスムーズに回らない	スパークプラグに欠陥があります。
	キャブレターが正しくセットされていません。
	エアフィルターが詰まっています。
	燃料タンクのタンク通気孔が詰まっています。
	イグニションキーに不具合があります。
	キャブレターまたは燃料ラインに異物があります。
	チョークを使用しているか、スロットルケーブルの調整が間違っています。
エンジンが十分な出力に達していないと思われる	エアフィルターが詰まっています。
	スパークプラグに欠陥があります。
	キャブレターまたは燃料ラインに異物があります。
	キャブレターが正しくセットされていません。
	チョークを使用しているか、スロットルケーブルの調整が間違っています。
エンジンがオーバーヒートしている	エンジンへの負荷が過剰になっています。
	スパークプラグに欠陥があります。
	空気取り込み口または冷却フランジがふさがっています。
	ファンに損傷があります。
	エンジンオイルが少ないか、無くなっています。
	イグニションに不具合があります。
バッテリーが充電されない	1 個以上のバッテリーセルに欠陥があります。
	バッテリー端子のケーブルコネクタに接触不良があります。
本機の振動が激しくなっている	ブレードの固定に緩みがあります。
	エンジンの固定に緩みがあります。
	損傷があったため、または目立ての後にバランスが崩れたために、1 個以上のブレードでバランスが崩れています。
芝刈が不均一になっている	ブレードが鈍くなっています。
	芝が長いか、濡れています。
	カッティングユニットが斜めになっています。
	フードの下に芝が詰まっています。
	右側と左側でタイヤ圧が異なっています。
	運転速度の出しすぎです。
	エンジン速度が遅すぎます。
	ドライブベルトが滑っています。

電気および油圧システム

電気系統

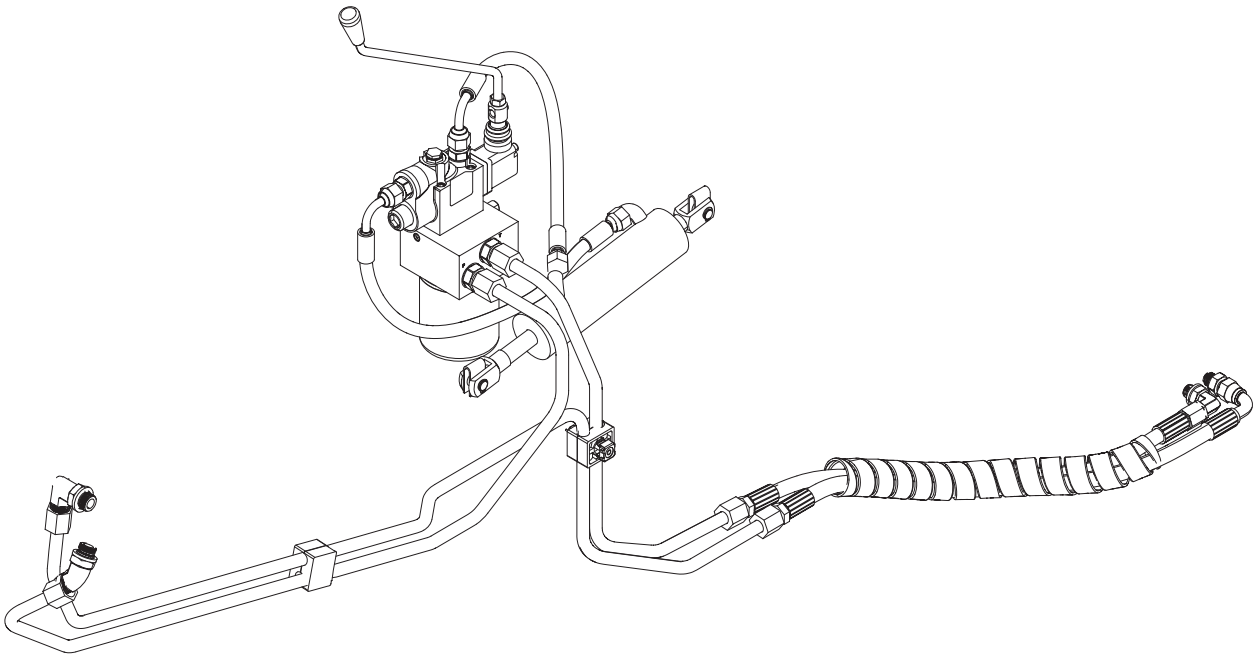


各番号は、以下に対応します。

1 マイクロスイッチ、ハイドロスタティックトランスミッション
2 マイクロスイッチ、カッティングユニット
3 マイクロスイッチ、シート
4 イグニションロック
5 カウンター
6 スタートリレー
7 エンジンコネクタ
8 メインヒューズ（15 A）
9 ヒューズ（7.5 A）
10 電源出力のスイッチ
11 電源出力
12 ライトのスイッチ
13 ライト

電気および油圧システム

油圧システム



油圧システムは、常にきれいな状態に保ってください。以下に注意してください。

- 周辺をしっかり清掃してから、補給キャップを開け、コネクタを緩めてください。
- オイルを補給する際には、汚れのない容器を使ってください。
- 密封容器に保存しておいた混じり気のないオイルのみを使ってください。
- 排出したオイルを再利用しないでください。
- メンテナンススケジュールで指定される頻度に従って、オイルとフィルターを交換してください。

油圧システムが問題なく機能するように、異物を入れないようにしてください。使用中、システムで粒子が生成され、摩耗や機能の異常を引き起こすことがあります。この粒子を除去するため、システムにはフィルターが備えられています。フィルターは生成された粒子を捕捉できるサイズですが、汚染物質がシステム外から侵入した場合、フィルターが短期間で詰まり、意図したように機能しないことがあります。システムに汚染物質が侵入すると、自己増殖サイクルにより汚染が拡大します。その結果、運転できない状態になり、システムの清掃に作業時間を割かなければなりません。

保管

冬期保管

シーズンが終わるとき、つまり、本機を 30 日以上未使用の状態にする場合、すぐに保管の準備を進める必要があります。長い期間（30 日以上）燃料を放置すると、粘着性のある沈殿物が生じてキャブレターが詰まり、エンジンに不具合が生じる可能性があります。

保管時には、粘着性のある沈殿物の発生を予防するために、燃料スタビライザーを対策として使用することができます。アルキレートガソリン（Aspen）を使用する場合、この燃料は安定しているため、スタビライザーを使用する必要はありません。ただし、繊細なゴム製部品が硬化するため、標準的なガソリンからアルキレートガソリンに切り替えることはお勧めできません。タンクまたは保管容器の燃料にスタビライザーを追加してください。メーカーが指定した混合比を必ず守ってください。スタビライザーを追加した後は、キャブレターに達するように、少なくとも 10 分はエンジンを回すようにしてください。スタビライザーを追加した場合、燃料タンクとキャブレターを空にしないでください。

警告！タンクに燃料が入った状態で本機を屋内または換気の悪い場所に保管しないでください。気化した燃料が、裸火、火花、ボイラーの種火、熱水タンク、衣類乾燥機などに達する可能性があります。燃料を取り扱う場合は、注意してください。可燃性が高いため、不注意な取り扱いでは、重傷または器物破損につながる恐れがあります。燃料は認められた容器に排出して、裸火から遠ざけるようにします。洗浄には、絶対にガソリンを使用しないでください。代わりに脱脂剤と温水を使うようにします。

次の手順で本機の保管準備を行ってください。

1 本機、特にカッティングユニットの下を、注意深く洗浄します。さびを予防するために塗装部のはげを修復します。

2 摩耗した部品や破損した部品がないか本機を点検して、緩んだネジやナットを締め込みます。

3 エンジンオイルを交換して、廃油を適切に処分します。

4 燃料タンクを空にします。エンジンを始動して、キャブレターから燃料がなくなるまで回します。

5 プラグを取り外して、スプーン約 1 杯のエンジンオイルを各シリンダーに注油します。オイルが行き渡るように手動でエンジンを回し、プラグを戻して締め込みます。

6 すべてのグリースニップル、ジョイント、および軸に注油します。

7 バッテリーを外します。バッテリーを清掃、充電して、涼しい場所に保管します。

8 本機を清潔で乾燥した場所に保管し、さらに保護するためにカバーをかけておきます。

ガード

保管時や搬送時に本機を保護するカバーがあります。ご覧になりたい場合は、販売店までお問い合わせください。

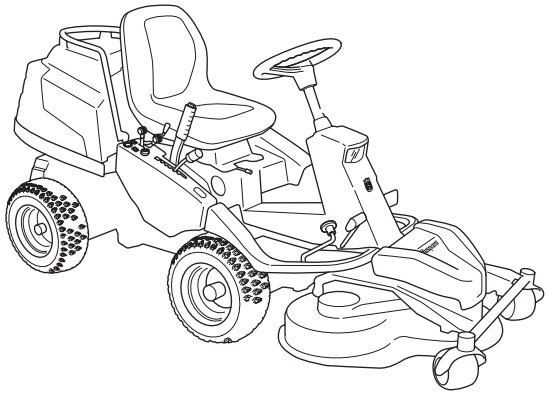
サービス

繁忙期の間に機能の安全性を高く維持するには、メンテナンスまたはオーバーホールが必要になりますが、閑散期はこれらを行うために最適な時期です。

スペアパーツを発注するときには、本機の購入年、モデル、タイプ、および製造番号を伝えてください。

必ず純正部品をお使いください。

次のシーズンにも乗用芝刈機に最高の性能を発揮させるには、信頼できるサービスディーラーに毎年点検を行ってもらうことが最も好ましいでしょう。



主要諸元

	R 422 Ts AWD
寸法	
カッティングユニット非搭載時の長さ、mm/フィート	2070/6.79
カッティングユニット非搭載時の幅、mm/フィート	900/2.89
高さ、mm/フィート	1160/3.80
空荷時重量（カッティングユニットを除く）、kg/ポンド	327/721
ホイールベース、mm/フィート	1000/3.29
トラック幅、フロント、mm/フィート	713/2.3
トラック幅、リヤ、mm/フィート	710/2.3
タイヤの寸法	18 x 7.5 x 8
空気圧、リヤ - フロント、kPa/bar/PSI	60（0.6/8.5）
最大勾配	10
エンジン	
ブランド／モデル	Briggs & Stratton/7220
公称エンジン出力（kW）（注記 1 参照）	12.5
排気量、cm^3/立法インチ	656
燃料、最低オクタン価、無鉛ガソリン	87（メタノール 5 %以下、最大エタノール 10 %以下、最大 MTBE 15 %以下）
タンク容量（リットル/米クォート）	17/18
オイル（クラス SC-SH）	SAE 30 または SAE 10W/30、SAE 10W/40
オイル量、フィルターを含む	1.9/2.0
オイル量、フィルターを除く、リットル／米クォート	1.7/1.8
始動	電動セル
最大モーター回転数、r/分	3000 ± 100
電気系統	
型式	12 V、マイナスアース付き
バッテリー	12 V、24 Ah
スパークプラグ	EMS プラチナ
電極間隔、mm/インチ	0.75/0.030
メインヒューズ	フラットピン（15 A）
電球（ハロゲン）	2 x 12V 20W
トランスミッション	
フロントアクスル型式	KTM 10 SA
リヤアクスル型式	Tuff Torq K 664
オイル（クラス SF-CC）	SAE 10W/50、化学合成
オイル量（合計、リットル）	3.2
カッティングユニット	
型式	Combi 112
	Combi 122

注記 1: 表示エンジンの電気定格は、（指定 rpm での）平均実質電気出力で、SAE 基準 J1349/ISO1585 で測定したエンジンモデル向けの一般生産エンジンに対応しています。大量生産用エンジンは、この値と異なることがあります。最終製品で据え付けたエンジンの実際の電気出力は、運転速度、環境状態およびその他の値によって異なります。

カッティングユニットの主要諸元		
カッティングユニット	**Combi 112**	**Combi 122**
刈幅、mm／インチ	1120/44.1	1220/48
刈高、7 位置、mm/インチ	25-80/0.98-3.15	25-80/0.98-3.15
ブレード長、mm/インチ	420/16.5	454/17.9
幅, mm	1220/48	1330/52.4
質量、kg/ポンド	56/123.5	64/141
カッター		
部品番号	5041878-10	5354294-10

主要諸元

騒音および振動レベルの主要諸元		
	Combi 112	**Combi 122**
騒音（注記 2 参照）		
音響パワーレベル、測定値 dB（A）	98	102
音響パワーレベル、保証値 dB (A)	99	103
音量レベル (注記 3 参照)		
使用者の耳における音圧レベル、dB (A)	83	88
振動レベル (注記 4 参照)		
ステアリングホイールの振動レベル、m/s^2	3.5	3.5
シートの振動レベル、m/s^2	0.7	0.7

注記 2：環境における騒音の排出は、EC 指令 2000/14/EC に従って、音響パワー(L_{WA})として測定。

注記 3：騒音音圧レベルは EN 836 に準拠。報告データによれば、騒音レベルの一般的な統計上のばらつき（標準偏差）は、1.2 dB（A）となります。

注記 4：振動レベルは EN 836 に準拠。報告データによれば、振動レベルの一般的な統計上のばらつき（標準偏差）は、0.2 m/s2（ステアリングホイール）と 0.8 m/s^2（シート）です。

重要事項 本製品の耐用年数に達して使用しなくなった場合、本機を販売店に戻すか、リサイクルのために適切な場所に送る必要があります。

重要事項 弊社は、製品を改善するために、予告なく仕様および設計を変更する権利を保有しています。

この取扱説明書の情報に基づいた法的請求は認められないことに注意してください。

修理には純正の部品のみを使用してください。純正部品以外の部品を使用した場合、保証が無効になります。

EC 適合性宣言（ヨーロッパのみ適合）

Husqvarna AB、SE-561 82 Huskvarna, Sweden（電話：+46-36-146500）は、2014 年の製造番号以降（年は銘板に製造番号の後に明記）のハスクバーナ R 422 Ts AWD が、評議会指令（COUNCIL'S DIRECTIVES）の規定に適合していることを宣言します。

2006 年 5 月 17 日付「機械類に関する」**2006/42/EC**

2004 年 12 月 15 日付「電磁環境適合性に関する」**2004/108/EC**

2000年5月8日付「環境への騒音排出に関する」**2000/14/EC**

次の環境保全規格にも適合しています。**EN ISO 12100-2、ISO 5395**

試験機関：**0404, SMP Svensk Maskinprovning AB**、Box 7035、SE-750 07 Uppsala は、2000 年 5 月 8 日付の「環境への騒音排出に関する」評議会指令 2000/14/EC の補足 VI に対する適合性の評価に関する報告書を発表しました。

承認証番号：**01/901/137、01/901/138**

2014 年 5 月 19 日ハスクバーナ

開発マネージャー／ガーデン製品担当 Claes Losdal

（ハスクバーナAB 正式代表兼技術文書担当）

JP - **取扱説明書（オリジナル）**

1156988-79

2014-06-18